



本草圖譜



本草圖譜卷之四十五目錄

菜部 葷菜類

韭	韭	二	一種	韭	
山韭	山韭	三	一種	山韭	四
葱	葱	五	一種	葱	
樓葱	樓葱	六	一種	樓葱	七
茗葱	茗葱	八	一種	茗葱	九
一種	一種	十	一種	一種	



韭

ふみら 和名 鈔

ふふ たれ

頼人菜 和名 翼

山藿 事物 異名

和々 同上

翠髮 名物 方言

菜鍾乳 史記

韭 園圃 多く栽す春月宿根より生れ形水仙に似て細く臭氣あり
外より採て菜とす其根より速く生れ一年四五度刈らる一夏
月莖を抽し花より傘の状をなして五輪の白花を開く実ハ
三角ありて仁ハ扁くて黒色なり

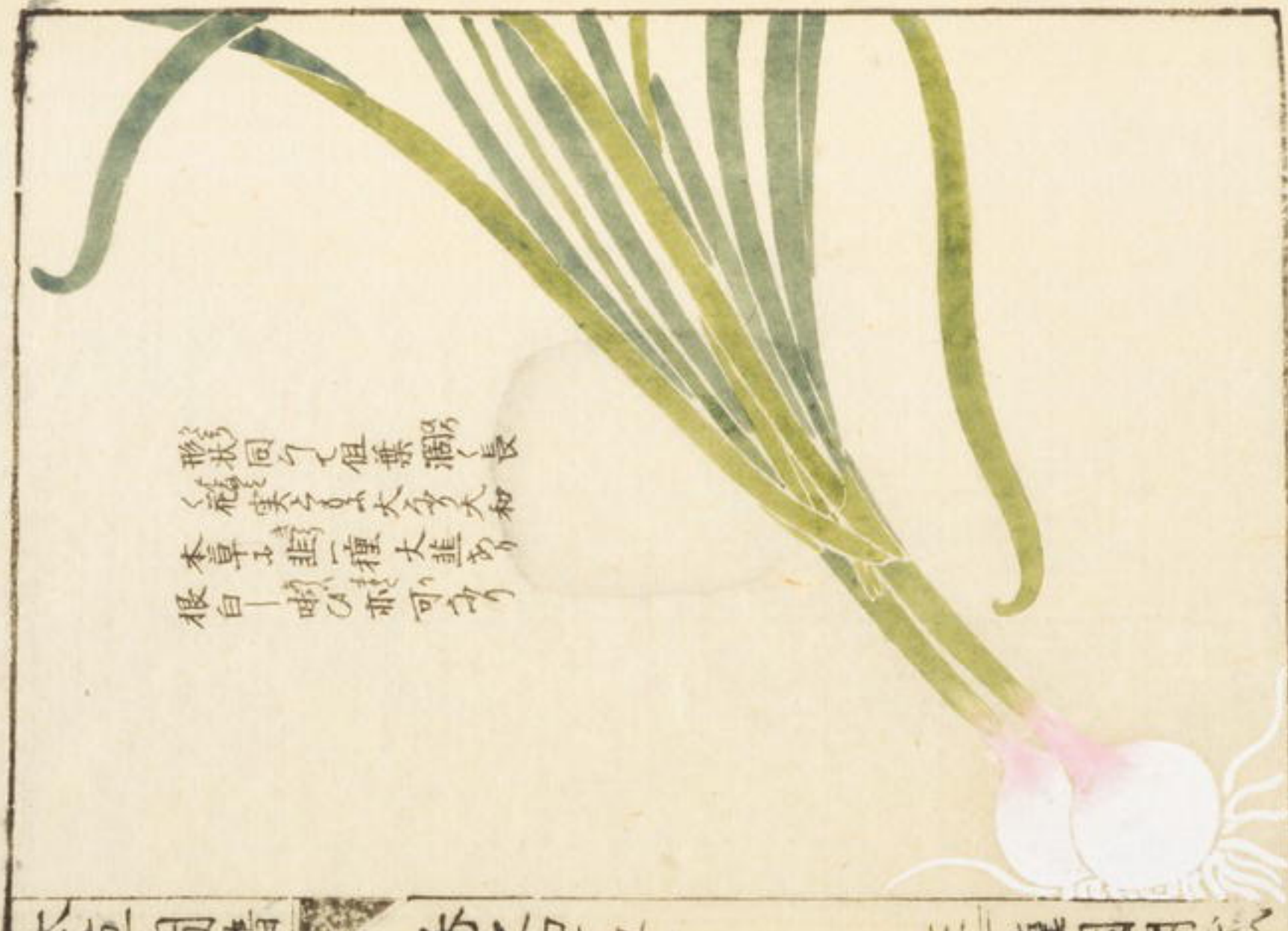




一種

芥菜

背非 本草



形状同く但葉潤く長
く花実より大なり大和
本草に非二種大非あり
根白一啖ひ亦可なり



野生のふくす武列
道灌の下牡蠣殻
山は多し形状並
小傾て瘠なり

一種

花は紅尾



名を武列砂村海濱砂地、春月宿根より生じ葉の香蒲に似て甚く
 少く莖に似て又短く堅く硬く高さ七寸夏月葉の中より長き穂を生じ形
 綿束に見ゆる如く花黄白色実の莖に似る根の莖に似て瘠う瘠う
 氣あり此水莖の類を尾列より食用に兼鹹味あり

葱

名を 葱 俗名 葱 俗名 葱

名を 葱 俗名 葱 俗名 葱

名を 葱 俗名 葱 俗名 葱

武列岩附下野の梅澤等名産なり葉の竹筒に似て粉綠色根三四
 葉臭氣あり夏月花あり此をきぼうといふ莖の花に似て白色地
 色より実黒色なり根白色にして堅く又わけきく云物、形又葱に
 似て細長く一板叢生にこれなる根を分栽る物なり鎮江有
 志不詳葱といふ



一種
 白き
 花



上列 花中
 花多 根長
 葉短 小
 見の 腕の大
 さを 長と
 尺許 葉の
 楕円 形似て
 肥ふ 味ひ
 甘く 上品



樓葱

やふねぎ

かふねぎ

ちかふねぎ

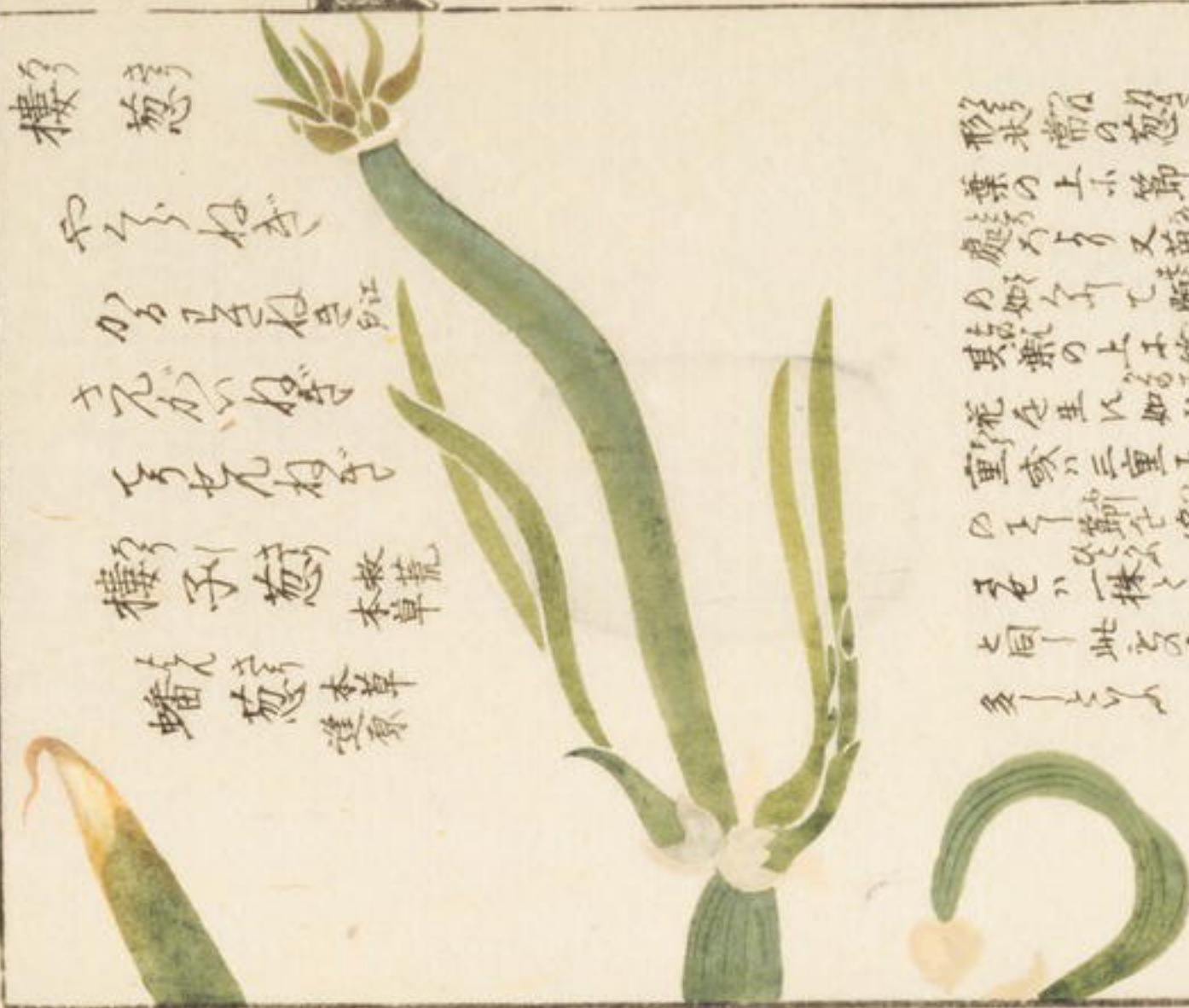
うねねぎ

樓子葱

救荒本草

蟠葱

本草逢原



形は常の葱に似て花を
葉の上の節より生ずる
處より又苗を生ず葱
の如くふて種を小く又
其葉の上の節を生ず小
花を生じ如此なるを二
重或は三重不及ふ樓
の葉の節を摘み採て干
すを「一株」の味は葱
と同じ此の奥列津輕
多しといふ



一種

漢葱解



小葱 夏葱

小葱 夏葱 上同

冬葱の苗を知るときは
形をわきまにすれば夏目
明て来るといふ根も
生に花実冬葱も同

茗葱

茗葱 天台蒜 本草

茗葱 天台蒜 本草

茗葱 天台蒜 本草

茗葱 天台蒜 本草

茗葱 天台蒜 本草

深山に自生ありと云ふ武列道郊ふゝゝ人家希く裁ゆ春月宿根
より二葉或ハ三葉生ハ玉簪葉に似て穂く花の形葉に似て六
輪淡紫色又白花あり実ハ葱の如く根ハ白色葉に似たり
味ハ辛く微ハ臭氣あり城列散山野列日光山形山又佐列
あり自生あり佐列の土人採食ハ蝦夷とて此根を服して寒濕
を治るといふ西洋本草の説ハ味ハ辛く苦ハ甘ハ草辛ふこれを

食らめて疲困をも再び發壯し勇猛をもとむ

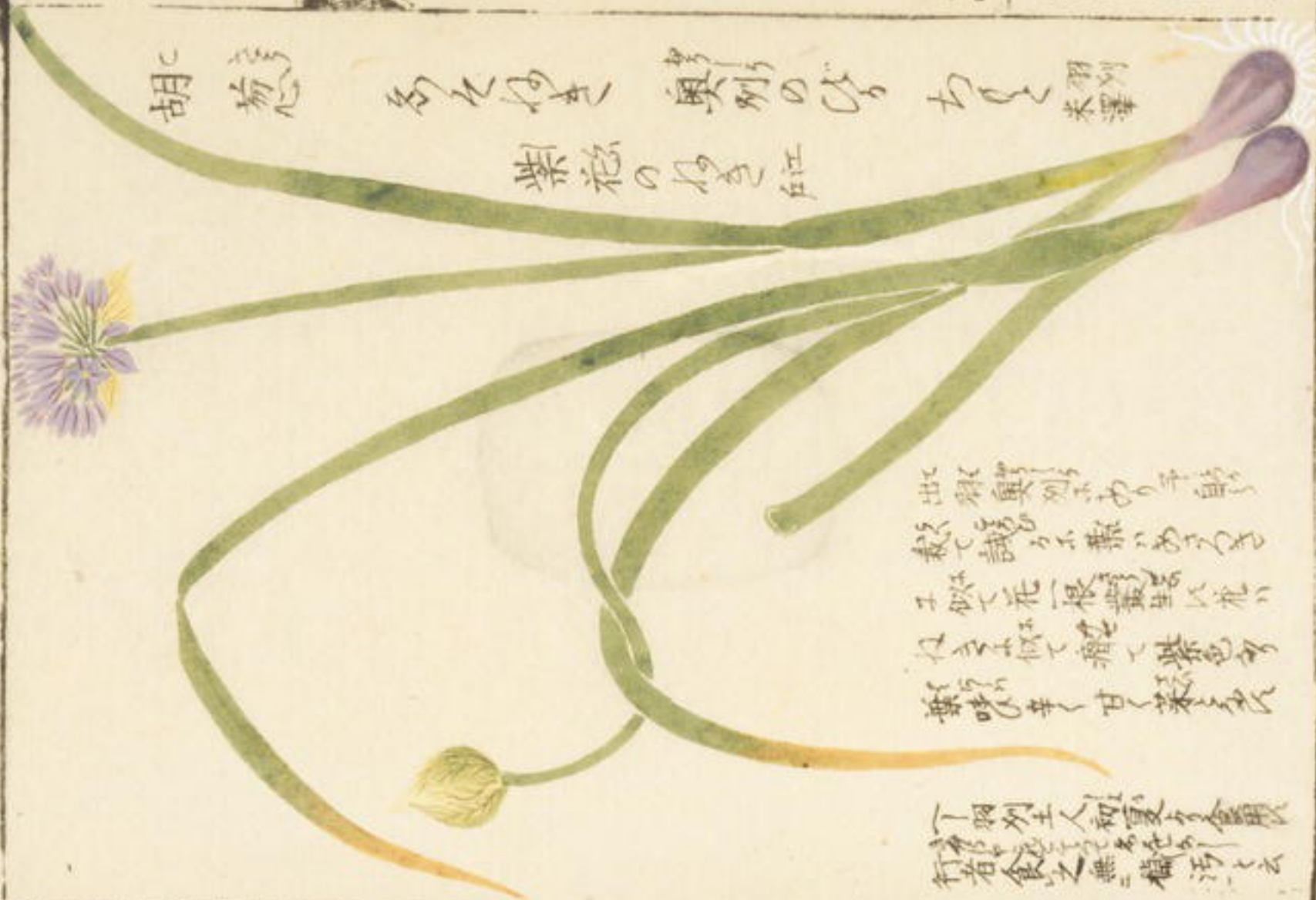


胡 荻

各々ゆき
 奥列のびろ
 ちと
 米羽
 運列

羽文
朱漢

江在 松の葉



此種實類あり千餘
載て誠ふ不棄にめりき
子似て花一根葉生に尤
ねきふ似て瘡て紫色なり
葉味辛く甘く菜とみ

下羽列土人初夏より金剛山
行者食之無_二指_一汚と云

一 種 名 之 曰 此



燈夷^をて^紫作^る近^年江^市と^紫
花^の葱^{と云}葉^の薤^路不^似て^稜
あり^{根上}紫^色花^又紫^色なり

一種

あまのつと

らん

かき

らん 前苑



一 根 叢 生 一 葉 一 花
 小 似 七 細 淡 緑 色
 三 月 頃 軟 子 味
 ひ 一 時 珍 の 説 江
 西 有 水 晶 葱 蒜 根
 葱 葉 並 其 類 也
 小 五 分



雄

おんみ 秋名 たまら 正

ら 中 菖 信

菖 類 切 要



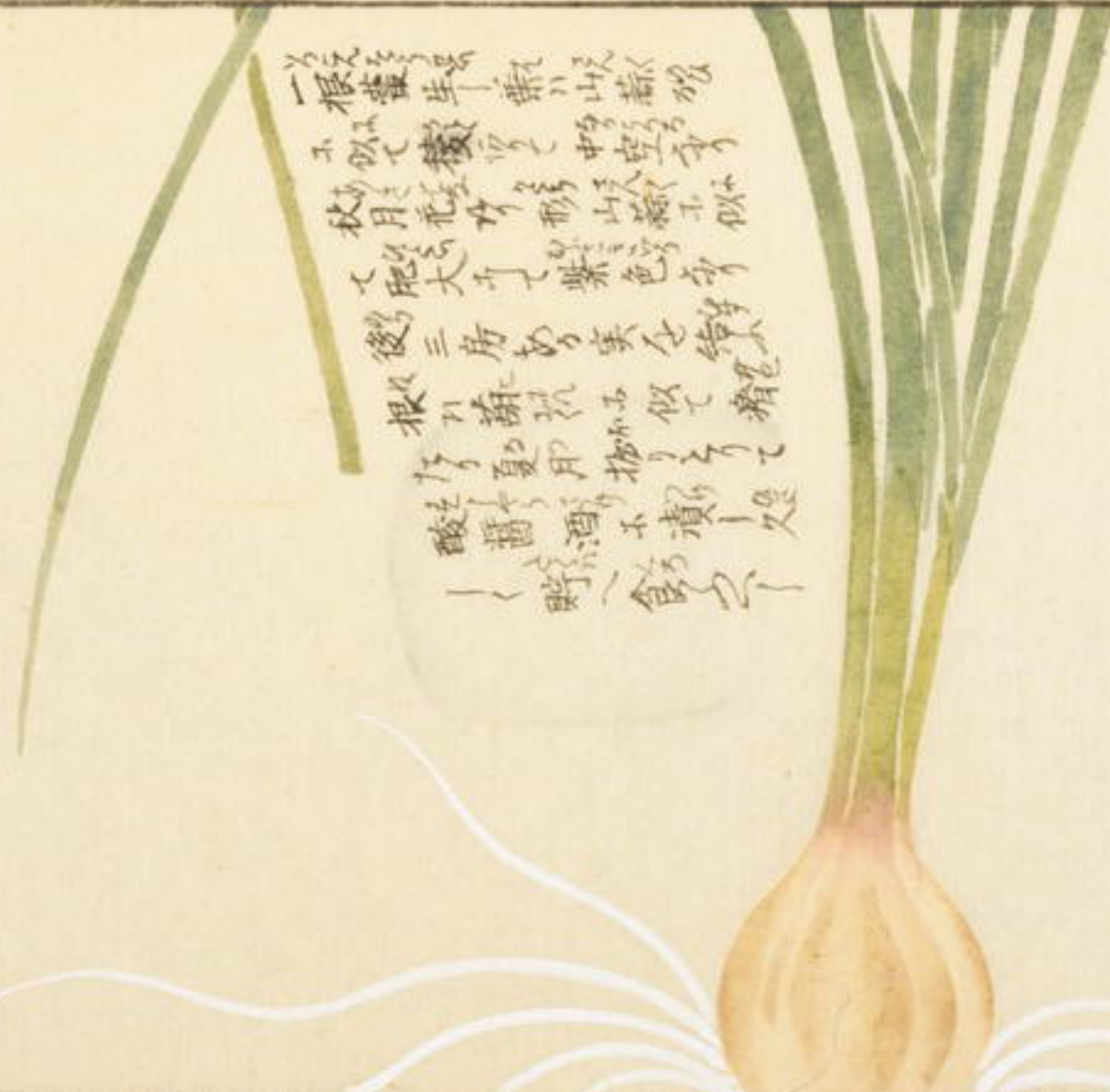
羊 冬 芝

本草和名引
養生要集

建 同 菖 大

同書引大
清根色

一 根 菖 年 菖 山 菖 菖
不 似 菖 中 菖 空 菖 菖
秋 月 菖 花 菖 形 菖 山 菖 似
て 肥 菖 大 菖 紫 菖 色 菖 菖
後 三 菖 房 菖 実 菖 菖
根 菖 菖 菖 菖 似 菖 菖
乃 菖 菖 月 菖 菖 菖 菖
酸 菖 菖 酒 菖 菖 菖 菖
一 貯 菖 食 菖 菖



一種 やまらけり めいごひる

山え薺ふ解

紫き薺き 故荒本草古今
医家作紫薺

一種 こひひる

尾列き表き形山薺
小似て短く四五寸
花あり十月し開き美き



武列き表き形山薺
小似て短く四五寸
花あり十月し開き美き
武列き表き形山薺
小似て短く四五寸
花あり十月し開き美き



山慈姑





本草圖譜卷之四十六

東都 岩崎常正 著

艸部 葷菜類

天夕子 庚午

春 菜

冬之

百集同共

秋月 実を載て生い景、燕^{ふら}青く、似根細一春月 墓を生い花を
変へるなり又云、さうも云葉、あひ指し、四辨の黄^き花を聞
けり花は他々大分真実と云々、他^た、しり、所^{ところ}菜子油之
又春月 実を下二重生い形、蛇^{へび}恠^{おどろ}の開くる、如^{ごと}一起、其割^わ
ると上又生くと高々二三寸、寫^{うつ}の、い、え、え、食ひ飽く、え、え、え
菜と云、池田園史曰、昔菜^な四^よ種^{しゆ}使^{つか}覽^{らん}の春^{はる}花^{はな}なり



一 種

3-10-1910

紫 松 檜

卷二
 五言古詩
 七言古詩



一種

葛西菜 大和草

白葵菜

秋 美 上同

形
 同く但量も凌
 越もあつて江ふね
 川の左の岸





松竹



一種
部、名

松 じんけん ちんけん
つげ 集 軒 菜 園 史

江戸三河島も産肥大うへ上品うへ 秋月実と載る形なるうへ 似
まきうへ 高さ二尺余 茎白色 葉四一 楕形 葉色うへ 三月花うへ 形
なるうへ 同一 冬月 頭へ 顔ひん 極細 葉とさうの 半地 葉うへ 又
山城の生いなるも此類 へ 池南園史の 概 葉うへ 京都加茂の 垣
へ 概 葉をいふうへ へ へ

一種 ひんけん ちんけん

近年唐種は、載るものあり 形は、似、黄綠色 葉うへ 茎色 赤
へ 五七方 白色あり 故、ひんけん ちんけん の名なり 腕 葉へ 葉上品
時珍の言、一種 茎扁 葉 白 其 葉 皆 淡 青 白色へ 云是うへ 然れ
一二年の同、形同へ 葉へ 葉 葉色うへ 葉 葉へ 葉 葉を 生 葉
都のうへ 同形 へ 葉 葉 葉同へ へ 但 土地 へ へ へ へ
へ へ へ へ

一種
青龍寺
又 善光寺



つげ
一種

一種

そとろ

松月堂と云ふ一、はしき、葉の
量、似て茎長く、葉の色を帯ひ、野薔
と食ひ、其幹、長く二三尺、樹の如く
花、赤、白、の如く





一種

石之種





一種
けいふ

一種

をらんふ 大和 本草 えんふ 戸

幹太く根上塊を主とし、葉の如く葉は狭く、花又多く、葉の如く、根は短く、花は実をもち、又食す。大和本草、葉大く、無光、白けいふ花、淡黄色、葉の如く、味佳、根は三年、花開く、是花の熟す。

一種

けいふ 戸 水入菜 水入菜 春菜 水菜 水菜

水白菜 水白菜 百頭芥 百頭芥 水魚 水魚

水菜 水菜

葉の形白菜多し、似し、根は短く、花は多し、葉は細く、根は長く、葉の如く、根は似し、根は長し、一葉数十葉を主し。

芥

かゝ子 芥 松通 家芥子 芥 辣芥子

小芥子 同 上 辣菜 芥 黑芥子 白芥子

秋月より至るまで葉は青々として似て銀葉銀葉の如く花は白く葉は青々として似て小
時珍説は青芥なり

一種

わろたか 大和 たる子 ちや ちや 上

大芥 時 八竹 菜 芥 春不老 花 荒

形状は葉は白く似て長く大なるをてて硬く銀葉の如く花は白く葉は青々として似て小
時珍説は青芥なり

一種

いら 大和 花 芥 時

形状大芥に似て小く嫩く葉は青々として似て銀葉の如く花は白く葉は青々として似て小

一種

ちやんか 江 ちりめん 花 芥 時

葉は青々として似て長く葉は青々として似て銀葉の如く花は白く葉は青々として似て小

芥

かゝ子







ちりめん



ちりめん



木まのかく一あけ枝幹小木の如く高き二三尺枝を合ち葉を生い大芥に似
たり花身ききのかく此の白芥の集解時珍の語に下一種草文
而中実者を高其子亦大此菜雖是芥類過然別種せり
以上是なり

白芥

— 洪武 —

1985 20
2000



早苗より早く種をひ形状も皆不同但葉白色を略し実大く淡
黄さう此実が食用となり大和芋草、白芥子、実大く葉大く、他
の芥子類より少し大く、いさゝかして雑食品に加へ味の中へては朝
食鹽、白芥子と云ふ者より大抵不似、腫瘡目よりを防る白芥子
の末を水で銅一匁三錢引下し瘡疹を令く目に入りしむ

烟 烟

20
 21
 22

鷄毛菜



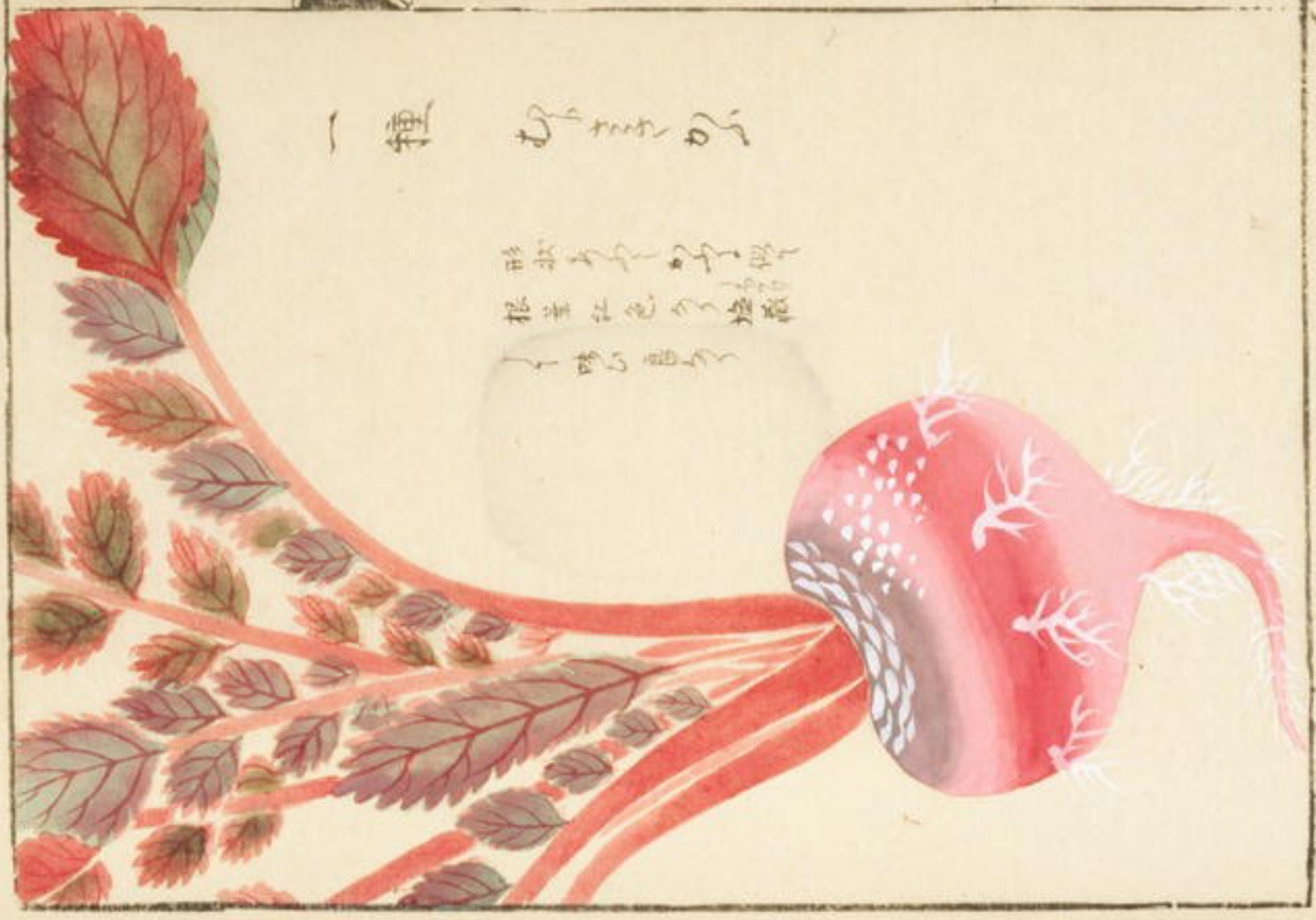
冥ミョウ精セイ通ツウ 四時菜

月令廣義

根^ハ莖^ノ葉^ノ花^ノ實^ノ果^ノ
花^ハ実^ト同^シ一^ニ葉^ハ三^ニ五^ニ一^ニ葉^ハ分^リ天^ノ本^ノ朝
食^ル量^ハ量^ハ陸^ノ乾^ノ點^ハ美^ノ氣^ハ乾^ノ果^ハ二^ニ葉^ハ
一^ニ種^ハ多^ク形^ハ狀^ハ相^ハ似^ト根^ハ量^ハ品^ハ色^ハ

一種 紅毛草

形狀如紅毛草
根並紅色多塊
一吋許長





一種

天王寺

形状より、似て、腰より小く、膝より大なり。又江戸にて

之を形、小く白きものあり。

五方之白虎



一種

大和堂 子 吉

蓮花白通正堂

形よりなり 似て尾より頭へ倒し 各々一摺列 坂田の近村の産

三

一種

200

九英 豐 書 名

根 園 六 七 寸 五 節 一 味 日 美 矣



一種

芍藥

芍藥

芍藥



草：尋常之物
 同：但草之
 根：紫紅色同
 葉：色多時
 根：有紅白二種
 一：是之



種根色紅葉的香
形味心相同一之
理小嫩白下紅皮
之故南園史紅皮
鮮如血狀一多之



一種 西風^{もろこし}の草
 あま^{あま}たえ



葉細く花又ありて毎茎多し形葉の
 葉又西風の草に似たり故に名^{なり}時
 珍の親^{なり}有^{なり}花葉者^{なり}集解^{なり}一^{なり}云^{なり}此^{なり}草^{なり}

大和春草^{なり}又^{なり}葉
 菊^{なり}に似^{なり}根^{なり}小^{なり}
 冬^{なり}に^{なり}夏^{なり}に^{なり}
 草^{なり}を^{なり}食^{なり}す^{なり}
 云^{なり}々^{なり}



一種
 紅あま^{あま}たえ

形状西風の草に似
 又細く花又あり葉
 根^{なり}紅紫^{なり}色^{なり}なり

一種
白蘿蔔



葉は青く、根は白く、味は辛く、
 同く保色根の色は各の如く、
 色は青く、根は白く、又相判る、
 根は白く、葉は青く、根は
 黒く、此は青く

一種



江戸の如く、白く、青く、
 根は長く、根は細く、味は辛く、
 田村氏の如く、根は細く、
 加判る、作、四時、常、
 二

二 量、狭く、長く、根細
 長く、又、別、肥、後
 一 野、た、く、え、と、ま、あ、
 野、ま、く、ま、ま、ま、
 味、は、良、く、ま、ま、

一 種

ひまわり

下野市河の産する草。
花は白く如く根
田うへに生ず大土寺
ひまわり草と云ふ



一種 あそねたいえ

水蘿蔔 諸葛



一種 三月ふえ 夏ふえ 揚花 果腹 常熱



一種

沙羅樹

沙羅樹

沙羅樹

沙羅樹

沙羅樹

沙羅樹、俗名、根、木、堅、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、



沙羅樹、俗名、根、木、堅、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、



一種



わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

わさび

蔓 苦 薺 薺

野 薺 薺

葉狭く長く根細く生て
 長く三尺許り多乾く
 をわさびといふ
 根乾く為に人胃
 (とせき)



本草綱目 卷之四十七 目錄



菜部 葷菜類

鹽	乾鹽	乾鹽	乾鹽
一種	物印せる圓	同蒿	三
一種	家さ	邪蒿	五
胡荽	六	胡蘿蔔	七
野胡蘿蔔	八	一種	九
水芥	十一	一種	

本草圖譜卷之四十七

東都 岩崎常正 著

菜部 薑菜類

薑

くわのちん和名 むしみ ぢか

サイクラク朝鮮 シンシベル羅 ケンベル蘭

勾言 粒言 指言 阿言 捺言 囉言 迦言

武列十佳又根字く多く作冬月以 露中以 野へをまゝ母薑以 薑の根を春月以 園に栽む初生竹の節の如く長ずる薑荷以 似て然る夏月新根を生じ根の上紅色根高良薑以 然る根を乾燥し味辛く長香く新根を俗々を食ふ以 食食用以 即ち紫薑以 根を引けりか以 之を母薑以 菜用と母薑以 を用ゐる南以 方以 暹羅以 國の産なり本邦

一種

物印
開の図





松月矢之下い又春月一実
 を下一生い葉の形主目高
 之他一大い一毛舞一
 冬春葉を食い春葉高
 一尺四葉葉生一枝一
 花の單瓣の菊花を似一
 大に子余初一輪の本葉一
 太白色之日を輝一時黄色
 とある時を一時常
 食一

一種

あかき せんしん せんしん

アタロロシロシロニ 麦飯 野同蒿 草花



根葉うつし嶋人多く英人
食用い秋月まよう節を生
は和生の意地しき意
菌人似て腹を肥て
細く春まう高く三三
り葉五半柄とふ花
白く同蒿の形と同
くは舞鶴知一童の味
き一徳一香あり



邪蒿

くまら

斜蒿 野萩



ヒヨドリバナ ムクゲ

ヒヨドリバナ 蘭荷

甲州之武井川城邊より秋
月より生じ葉は野同蒿に
似し細葉又青蒿に似し微
白色を帯び夏月葉は三
四尺形又青蒿に似し細葉
淡黄花を咲き後細長の莢
角を結ぶ中子見ると小
花多きは苗根を多く採る



胡 荽

ふー和名
荻 蔴 上同

いんふろ 葉名つうし
花の輪廻

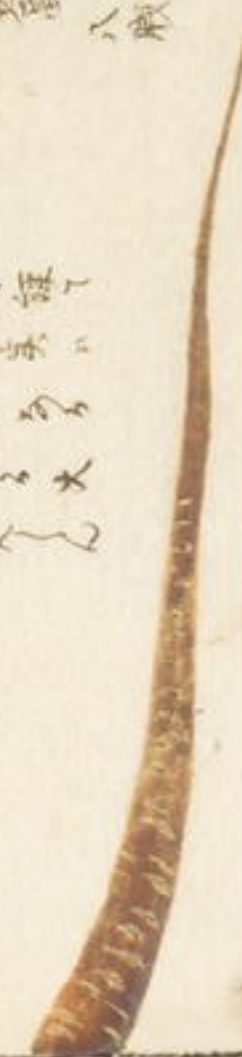
艾 蔴 飛過

和名ふー重種を傳ふ物あり秋月実を下し生じ和生の量因りて葉
實あり石胡荽の如く一先沢あり長き花合つて三枚九量とあり
花父を多く生し細く小苗香の如く春月茎を起し高さ一尺許り
重互生し細く糸の如く形小苗香に似たり四五月茎の節に葉を
多し丑舞の小舞法葉花を開く鮮に一葉あり復実を結ふ大々麻子
の如く正四角う熱き水に令て兩片とあり苗根臭氣あり花実の
苗根共に移る



胡蘿蔔 文人家胡蘿蔔 紅蘿蔔 蓮生
 胡蘿蔔 胡蘆肥

六月土用種を下し其葉、緑、皮、白、似、胡、大、多、冬、を、種、
 春、月、葉、之、抽、多、此、を、今、年、收、を、多、小、白、花、を、開、き、実、
 緑、皮、似、毛、茸、の、根、蘿蔔、細、長、紅、黄、色、を、
 物、上、品、味、良、黄、白、色、を、下、品、を、と、大、
 和、本、草、毎、月、葉、を、下、し、根、を、食、ひ、て、よ、い、味、を、と、
 り、



砂蘿蔔

此、物、全、く、蘿蔔、の、類、に、
 似、て、胡、蘿蔔、の、多、し、
 今、日、時、珍、此、根、を、
 食、ひ、て、多、く、一、回、其、
 腹、の、條、を、よ、い、

野の胡こ蘿ら蔔く解かい皇



6-2-2
 5-2-2
 4-2-2
 3-2-2

2-2-2

25th Nov 1894

2-2-2

2-25-2

稿本同名
吳興

Don't
know

ケシホリ工

44 2 14 4 2 10

荷蘭

・短く、波長—白色

つて、^ア軟弱な胡に

荷は秋成り味

一六

太和元年

4455

性味 苦、平。

周子若

111

二種を大量に物、和列金之

剛山及び相判鍾意、自生

わきまをわけておいて

葉子似一葉，淡綠色，根

歳次は春月、字は九六筆を

抽以桂葉互生枝樹

拿收之河上立碑の白花を

多く賸餘し後實あり

馬、阿南胡拿、燕王好馬

一種

細葉の物

ニカニチキス 白羅

ヤルテケルツル 蘭荷



仙臺聖奈郡佐治郡高木
 多し夫又人といふ事多し
 一樹ふく花多し大葉の物
 土同只根の味い暖る大葉
 の物と云一和蘭の葉
 葉多し生るゝ煮て食
 いもく煮て生るゝ食する
 四日ひ腹を痛く煮て食
 好く時腹を痛く煮て食



水芹

水芹作号目錄
解語作水宜從



一種之草



畧々相似々取子帶之令婦人感夫可寢生國中細如芥花世不作
 角以鏡向臺觀之則了自矣五月五日妝之々々諸列の山野乃陰
 地竹林中、多一秋貝実々生一葉、史胡家、他一細茎々々又小々々
 胡置蜀は之似々茎葉紫紅色を掌人春月、多一茎を挿々花あ
 う又延胡家、他一紅紫色稍小々々後四五合の而手灰を焼上根、小
 き塊々々々赤褐色々々

一種

ちんけま

尾列々々々々物二茎條也々々花白々々々々



ちんけま

ちんけま

一種

まけま いふ
 ひふ いふ
 ひふ いふ
 まけま いふ
 ホイ又子シスロ いふ
 コリタリス いふ
 ヒマリア いふ

葉の形は胡麻に似て枝多く根大淡緑色し
 茎は枝より肥て軟弱なり草を地より計出づ
 春月花あり延胡草に似て黄白色なり此草は弱
 なり臭臭なり肺氣或は尿氣に似たり



一種 まけま

尾切 いふ
 まけま いふ
 下延 いふ
 枝あり いふ



上



馬薊

きんぎょじん

如麻清正朝鮮人冬の種は他で
水に持てて多や、種は多し

きんぎょじん

セルテシイ 薊

秋名ふ時珍俗稱野茴香、即ち板蕒本草の野茴香、秋
月美を下し、生い、葉、芳、薊、ふ、似、深、緑、色、光、沢、あ、る、葉、の
條、理、う、る、夏、月、臺、を、抽、一、二、三、尺、幹、の、中、空、う、る、枝、を、令、て、花、を、
水、芥、に、似、て、白、色、後、赤、き、実、を、許、上、集、解、の、説、に、皆、花、白、一、板
蕒、本草の説、黄、花、を、あ、る、薊、を、説、に、似、鬼、汁、茶、葉、等、嫌、時、
可、食、花、葉、白、色、子、黄、黒、色、似、防、風、子、胡、食、味、用、之、香、似、橘、皮、
而、無、多、味、と、い、ふ、今、は、荷、蘭、人、菜、と、い、ふ、常、に、生、く、食、之、此、根、
地、種、痛、を、止、む、の、功、あ、る

一 種

きんぎょじん

ヒイ子ルセリ 薊

薊、種、を、傳、ふ、り、の、き、秋、月、美、を、下、し、生、い、脚、臺、水、芥、芳、薊、の、香、
の、如、く、糖、の、量、に、加、く、小、茴、香、の、如、く、あ、る、花、葉、き、う、る、人、
と、同、く、香、味、に、似、く、花、葉、を、み、る、根、枝、を、又、藝、列、廣、島、と、い、ふ、
紫、胡、と、稱、さ、る、り、の、あ、る、形、状、相、似、て、根、を、き、と、ま、さ、う、る、人、の、如、く、
う、て、種、一、思、ふ、同、種、と、い、ふ

馬薊





五



懷香 いんこう 蘭花 らんか 又物印に上載する所の名。
 アニシム あにしみ 蘭花 らんか 懷香 いんこう 芝 し 本草和名
 香芸 かうぎ 上同 草懷香 そうわいこう 本草

豆別白、葉、枝、野、生、あ、る、春、月、宿、根、より、生、じ、葉、は、胡、葱、。老、葉、又、苗、陳、高、
 の、梢、の、葉、は、似、て、長、く、條、葉、の、如、く、若、緑、色、焦、氣、あ、る、秋、月、高、く、四、五、尺、
 枝、幹、節、あ、る、竹、の、如、く、中、空、あ、る、枝、の、節、より、年、次、を、う、く、小、葉、花、を、
 懷、生、一、葉、明、の、花、は、似、て、葉、の、葉、の、如、く、整、々、性、短、く、是、時、珍、の、
 説、く、若、根、深、冬、生、苗、作、葉、肥、差、條、葉、五、六、月、開、花、如、く、龍、枝、花、
 而、色、黃、花、は、大、如、く、多、花、舞、而、有、細、枝、俗、呼、を、大、苗、香、と、い、ふ、

今、惟、以、一、葉、夏、之、者、為、一、其、他、所、小、者、謂、之、小、苗、香、と、い、ふ、

一 種 いんこう

小、苗、香、の、宿、根、より、生、じ、い、ん、と、八、月、種、を、下、じ、年、を、証、夏、を、至、
 苗、根、枝、を、以、て、分、つ、但、高、く、二、三、尺、に、過、じ、葉、は、花、葉、も、懷、香、に、異、
 な、り、臭、氣、あ、る、と、い、ふ、小、苗、香、は、似、て、短、く、薄、く、一、時、珍、其、他、所、小、者、
 謂、之、小、苗、香、と、い、ふ、物、是、を、い、ふ、

竹





種

時珍自番舶來者實大如柏實裂成八瓣一瓣一瓣一瓣大如豆黃
 褐色有仁味更甜俗呼船茴香又曰八角茴香一曰本邦
 少番舶來者實小如胡椒狀一曰本邦然此物香氣
 烈食用之供饌又藥中用之載之所為アニシム。ステルチニム
 小物船茴香者草木一莖五葉一曰本邦似一曰本邦四葉
 實外本草之書甚多一曰本邦八角茴香以一曰本邦大茴香
 一一曰本邦時珍說大茴香為小茴香一曰本邦然此物
 但知同小茴香一曰本邦性熱一曰本邦不可入食料一曰本邦

八角茴香



蔴 薺



先華いんを蔴
薺々々々々々々々
いんを蔴を蔴
香の一年生なり
少く西洋より南
蔴香を大蔴香と
稱す其小蔴香と
稱す其いんを
いんをいんを

此は小蔴香を
載す



羅勒

わさび



蘭香菜

蘿方

野生の一葉月夜を下り香、所荷、似、小、夫、う、う、草、生、一、葉、

毛、う、夏、月、穂、を、う、一、葉、数、花、を、開、う、唇、を、ち、り、花、の、形、陰、列、夏、枯、
草、花、に、似、て、粉、紫、色、を、う、唇、中、の、実、を、詰、う、具、仁、車、前、子、に、似、て、黒、色、
を、眼、中、に、入、れ、暫、く、あ、つ、て、身、を、白、膜、を、う、ち、り、白、く、出、て、故、
を、う、き、う、う、

白花菜

や、う、さ、う、庄、や、か、さ、う、舞、う、ま、う、う、

暖、国、の、海、辺、に、あ、つ、初、夏、実、う、生、い、意、に、五、加、た、に、似、て、田、く、葉、豆、半、
高、に、二、三、尺、を、合、う、梢、に、四、角、の、白、花、を、開、く、葉、長、き、う、一、寸、ま、後、
角、を、詰、う、葉、長、き、に、似、う、角、中、の、実、又、松、子、の、に、似、う、花、実、の、
葉、根、枯、

白花菜



焯菜

いねがー のがー だんご江 ちんちん根

をところろす 未羽 以別 水芥菜 本草 根尾

焯菜二種ありいねがー、山野或、園圃の中通傍湿地見まゝ、高根、生い葉、家、な、似、腰、小、黒色を帯、夏秋、同、高、四五寸、一、二、三、花、穂、を、一、四、五、黄、花、を、開、形、不、作、似、後、細、葉、を、持、長、四、五、分、葉、の、味、辛、一、熱、一、食、一、更、之、根、細、一、長、油、一、煮、一、食、一、此、物、時、珍、の、説、皆、合、氏

一種

ふかーろーろー ちんちん ちんちん根

モスタール 蘭 風花菜 本草

前條水芥菜の屬、海濱沙地、生い、苗、葉、大、花、又、多、但、角水芥菜、一、種、此、物、時、珍、沙、地、生、者、云、云、云、

焯菜





ちり
たろ

一種 ちり — ちり

山苺菜 本草

江列伊吹山、産
根より生、四時
より重、水苺菜、



似、四、深緑色、光沢
あり、春月、高さ一尺許、
根より生、四時、小黄花
を咲き、細長、莢、を結ぶ

一 説
 わさみ 和名 子 飯 せつせし 上同
 山 芥 菜 科 菘 山 葵 和名 鈴 引
 本草 卷 主 叔 録

野列日先山藪見、滝、自生、其奈諸列溪山渡、生ハ駁列
 有岨、名産、山、好、是を食、花根、形、萍蓬草、似
 味、辛、香、氣、葉、食、意、細、辛、似、薄、纖
 春、蔓、多、一、二、尺、コ、花、の、穂、似、大、一、尺、舞、四、舞、の
 白、花、を、開、後、小、細、角、を、結、正、通、彈、菜、好、生、高、山
 泉、邊、石、上、照、石、鳥、落、一、種、肝、江、有、之、本、味、氣、味、
 辛、走、氣、薄、菜、細、加、以、生、菜、洗、伴、或、思、為、食、之、葵、消、食、多
 食、癰、瘡、生、無、と、



本草綱目卷之二十一 菜部 芥菜類 山葵 一 説
 本草綱目卷之二十一 菜部 芥菜類 山葵 一 説

一種

奧列二寸松ふやうふ
 と橋ふやうふ苗葉花
 尖山蕎麥^{アヲ}呼^フ同^ト
 根^ネ少^シ三四寸根^ネの形^{カタチ}卷^マ
 母^{ハハ}の意^イの同^ト生^ナい
 葉^ハの如^{ナド}ふやう^ニ紫色^{ムラサキ}重^{カサ}
 り生^ナい氣味^{キミ}又^{マタ}山蕎麥^{アヲ}
 と同^ト根^ネ葉^ハ冬^{フユ}明^{アカ}く
 土人^{ドノヒト}食^{タベ}料^{リョウ}と^{シテ}も^トな^ル
 山蕎麥^{アヲ}と^{シテ}同^ト



本草圖譜卷之四十八目錄



菜部 柔滑類

菠薐 ^{ハツ}	フクセン	一種	薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種
一種	フクセン	一種	久菜 ^{クサイ}	クサイ	一種
蒸菜 ^{チウサイ}	チウサイ	一種	東風菜 ^{トウフウサイ}	トウフウサイ	一種
一種	チウサイ	一種	薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種
薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種	薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種
薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種	薤菜 ^{ハクサイ}	ハクサイ	一種

本草圖譜 卷之四十八

東都 岩崎常正 著

菜部 柔滑類

波菰 大和本草より引く 齒根菜 物理
 雨花菜 南史 鸚鵡菜 廣群

大和本草、事類彙編を引く此菜、本自西域、波菰、誤呼、近菰、といふ、秋種之下、
 生、以、嫩、葉、摘、公、英、似、似、長、く、指、の、葉、三、枝、あり、高、き、の、葉、似、長、
 根、赤、色、と、白、二、又、許、の、葉、を、起、し、莖、う、つ、意、三、角、の、梢、枝、を、合、ち、穂、を、
 外、一、花、を、開、く、實、は、赤、く、滿、開、を、以、て、緑、色、白、也、と、す、雌、本、雌、本、あり、実、
 白、色、う、つ、二、分、許、の、兩、角、あり、三、角、う、つ、刺、あり

波^く 稜^は



薤菜

つる江 ちりき 江州 ちりき 播州 地
 いちり ちりき 遠州 ちりき ちりき

肥後宇土郡戸口村伊豆西浦相別武列海邊砂地、多一又人家、
 數日春月実を下し、生じ景景天、似て五生、莖の軟弱、
 長く地、延引、夏月葉の間、五瓣の小黄花を開き、後葉を結
 之莢、莢子、似て刺、つるを充ち、旧説多れ、黄花、
 威容、白、の、的、の、物、正字通、水薤、陸
 薤の二品、いふ、陸薤、近



一種

なかにん 列江
 なかにん 奥前
 なかにん 奥前
 まなみ 根
 正之ヶ毛 根

海辺砂地小豆一春
 実を種く形もまろふ
 似て景四く長く元
 沢あり地く弱い節



同ふ小白花を同き変
 を結ふ形つるり如
 三枝あり苗景 意
 食ふ



菜菔



一種

ふちも

形状ふちもやふちも、莖紅
 紫色、葉青、花、綠色
 莖、葉、似、生、食、一
 花、葉、ふちも、同



芥

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

此多く又蒲公英に似て狭く小く春月茎高き一尺
夫梢穂少く四瓣白花葉生一後三角うく居き
葉を待上形銀杏やめ居る似て其小く中細く
り

一種

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

あな

折 實

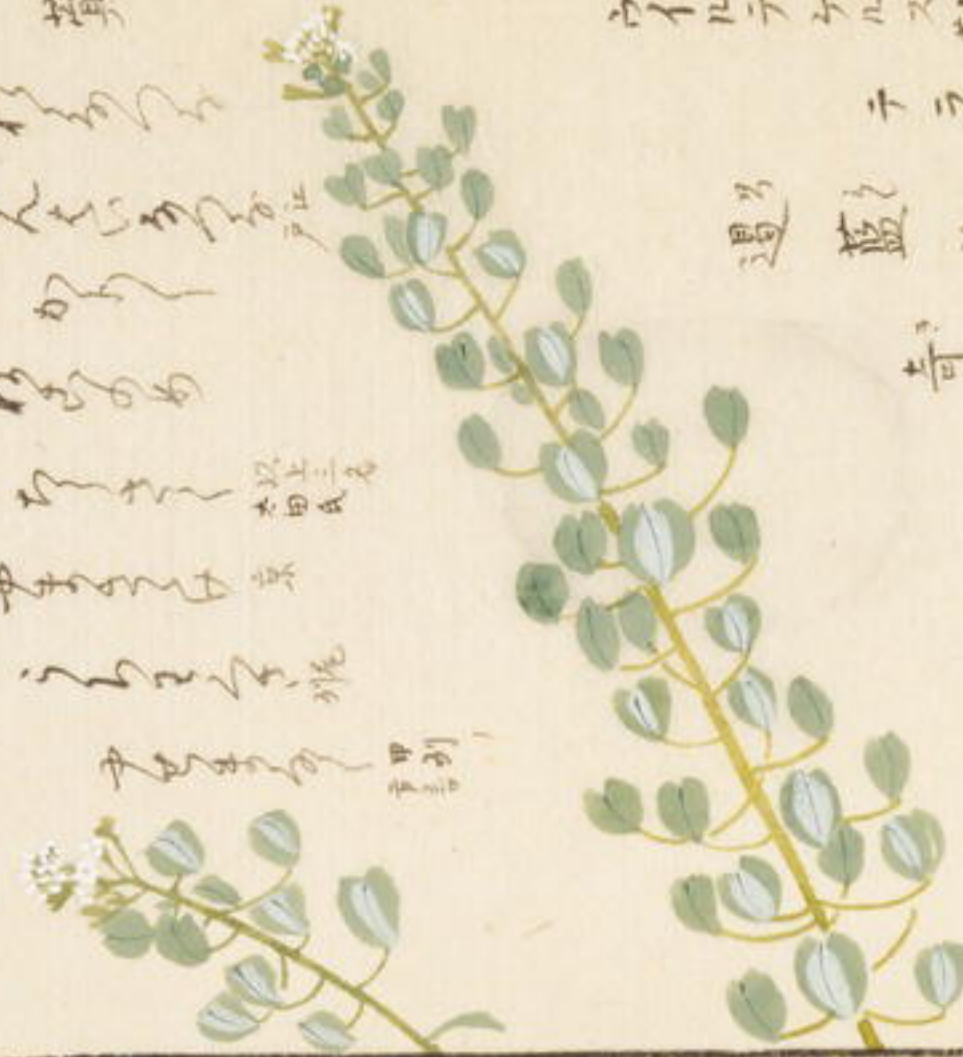
ウイニテケルス 直荷 アーレケルス 上同

トラスと銅

遇 藍 米 根

奇 晉 子 長

武判忌川通 常陸の市
施^テホの原野^ノあり 秋月
実^ニ生^キひ冬^ノを^一一^ニ周^ニ
ま^り春^ノ月^ノ成^ル塵^ニ一^ニ意^ニ
雲^ノ望^ミ望^ミの^ニ雲^ノ似^テ小^ニ
丘^ノ生^ル一^ニ折^リ真^ニ藏^ニ以^テ葱^ノ
と^ニ似^テ一^ニ生^ル直^ニ主^ニ高^ニ
二^ニ尺^ノ許^ノ走^ル八^ニ九^ニ穂^ノあり



薔の如く四瓣の白花を用ゝ後
 扁き莢を焙ふ形團扇の如く
 大き四五分中、褐色の細子以
 味い微辛く藏器并莖大石
 扁一ふれり和蘭本草
 根白く稍辛く味を吞一吐血
 せり此草の絞汁を服一乾葉
 を豆の下、敷て奇知揚
 燭一耳の中へ入れ、意の痛
 を治し又末を酒に入れ服ら
 ぬ難産を治し



一種

サリナリ



西洋より種舶来氏秋
 月英を植て生ひ香
 防風に似て生一春
 生うて高さ一尺五枝
 を食ち穂をち小白
 花を開き仰き葉を
 誇る過監菜に似て
 小ち葉中の葉末極
 の如くして黄赤色味
 い辛一葉を食用ひ
 又チホタルに似る
 節短くして葉過監
 菜に似る



魚

鱈

まぐろ

和名

まぐろ

まぐろ

ひる

中備

あまご

加加

ひん

後越

アルミ子ミコール

白羅

鰻

本草

鰻

本草

山野道傍又人家庭陰多く生じ秋冬の間に葉小く地へ附き春月漸く莖を地へ垂れ葉開き四五合或は一寸許り葉生じ葉の裏に白を令ら花は十辨より白色より二辨より五辨の如く見ゆ後朔旦を待て根の中は黄褐色の細子あり



一種

いん

あま

山陰地へ生じ

葉大く四合

大く三四合

白色十辨より



本草綱目

卷之四

二 植物部

一種

ましろ あまめ

ましろめあまめ 二め

雀舌草 雀舌草 卓野瑞

園中多くあり秋をまゝ
生ひ垂れ小うも米粒の如
く又繁盛に似て小く細き
莖面對し春月十辨の小
き白花を開く



一種

ましろ

武列大其各思こゝろ早春迄
根く生ひ黄く鰐鰯草に似て
春月五辨の白花を開く下
に似て小く夏月節の同くま
と若く柄を四葉集るこゝろ
あまめはこゝろ



一種

あまのぼけ

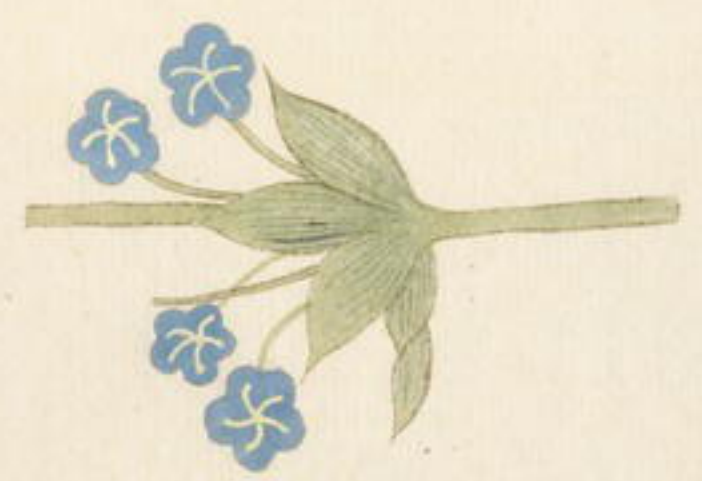
尾列くまき 青花
 花も物も量小く
 二舌 許く田く 登り 茎
 細く 長く 一尺余 地へ 生
 引いた 白色 花も
 茎 細く 下 葉 中
 へ あり 外へ 見 づ け
 青 花 とも



一種

あまのぼけ

地へ 生 ず



一種 不毛之草

武列高尾山中、あつち根、生ひ、形状、
夏、羅、似、て、茎、細、く、て、瘡、特、生、く、高、
三、尺、許、く、花、白、色、五、瓣、繁、密、く、花、大、
く、此、根、膏、く、瘡、疾、人、痲、癩、を、治、す、



一種 千草

瘡、疾、人、瘡、
狀、不、毛、之、
似、



鷄腸草

みろく

みろく 大和
本草

ひきまゝ

ねこみ 備前にうゑる草なり
叶ふり：龍胆草と

ねこのみ をまゝ

ねこのみ が能

卷耳 鍾詩 卷耳 雅全

耳瑠草 毛詩
草

權耳菜 本草
菰



冬月山陽の地に生じ初生地、布て盤を多し意、聖考、似て
綠色毛茸あり又地膚の如く對生し莖、繁茂、似て紫色香
三月摘、枝を合ち五輪の小白花を開き一分許りの薺兒を葉
中、細子あり時珍の如くこれを鷄腸草と云ふ、誤り
乃知、已に後に出る生此菜多し大和本草に但民藥とあり此
を食ふべし

首 菰

むき

和蘭本をふくしアリアの類。秋類を養、用ひし。

まき

えん

えん

城別実の形をえん

のり

へトアニテイヒ

懐風

西京

寛皮

草中山

薩必栗迦

薩止薩多

旧村氏云漢種のもの享保年中持来りし江戸薩持院の野に種
らるる今、康々原野にあり秋月まらるる生け如き茎蔓めどく
地を掘り置、胡枝子に似たり小く、津く露をみり一茎三葉なり
冬より春日茎長そ一尺許り梢の葉の同く小黄花を開く形又胡
枝子花に似たり小く後葉を節上居曲りし形田に大きき三合許り
軟き刺あり中、小く扁き子あり是時珍能小共、田扁能鮮百
刺しりりりり



一種

こもも草
ふゆ



葉小く、濃綠色、根一
毛あり、穂をうけて黄を
開き、小黒子を結ぶ、
あり、葉の形、草、蔞、蔞、葉
幹、ふゆ、和名、ふゆ、葉
花の、ふゆ、を見い

苜蓿

苜蓿 和名 苜蓿 江 苜蓿 備 苜蓿 加

白苜蓿 家苜蓿 時 慈苜蓿 本草和名

フリナエムホレイス、ヘルモニナクナエム、蘭

ヘニテカラス 蜜

人家、裁つて食料、備へ、七月、盆祭、に用ゐる、あり、葉、鶏冠、に似、大
く、四、葉、生、一、高、三、四、尺、枝、を生、一、秋、穂、を、う、け、形、蔞、に、似、
たり、実、黒、く、光、沢、あり、音、箱、の、子、に、似、

苋



一種

上品の物



苗葉大く枝
 幹は淡紅色葉黄
 綠色食用の上
 品なり

一種

琉球種のもの

形白莧の如く
 葉の中心は紫色の
 斑あり味美なり
 土色莧の一種
 なり



一種

いぬむし

のひめ

此集解云知見
糖見胡見野
見糖見
原野路傍



多一見、似
小、茎、紫色、地
掘、生、以

一種

ひまひめ

紫見 藥



一種

あかむし

赤見

藥

生、量、多、く
紅、紫、色、を、有、す

黄 雅通



形状、前、之、相、似、し、生、量、
皆、紅、紫、色、を、有、す、
緑、色、を、有、す

一種

仙人穀

五ノミ



文政十三年種西園「」未々葉「」見「」然「」然「」生淡紅色高
 三四尺秋月穂を「」下長「」尺「」乃上淡紅色下「」甚「」葉
 の穂の如く紅き子「」焼「」葉「」加「」以「」顯「」香「」故「」俗
 「」仙人穀「」の名あり然れ「」も「」蕎「」麥「」同「」食「」を「」以「」死「」
 至「」い「」

馬齒莧

くまのつぼみ 大くまのつぼみ

いねえつ 大くまのつぼみ 列加

砂地、
生い、
株

ホクモク、白羅 ホクモク、二口、ト 蘭荷

五葉龍芽 呂祖
金書

田野、多し、宿子地
くまのつぼみ、夏、生い
苗地、布き、草、
佛、草、似、
強、固、く、
強、固、く、



二、
花、紅、黄、色、
葉、の、間、に、小、黄、
花、を、開、き、
結、ぶ、
う、肥、地、に、
多、く、
天、計、に、又、
の、砂、石、中、に、
多、く、
く、
形、異、な、
種、と、





一種

疏球 考之類

批耳草 時珍名

苗肥大 葉特半枝 根如葉
 大 葉如 莖赤色
 兩 葉如 葉

一種

みつとろ

水馬齒 時珍引王

武列置島郡水田中
 秋子 生根水底
 莖細 葉如 葉形
 馬齒 莖如 葉形
 西野 樹水 浮
 春 葉 小白花



本草圖譜卷之四十九目錄			
菜部 柔滑類			
苦菜	少分	一種	二
一説	三	一種	四
一種	五	白苣	五
一種	六	高苣	六
一種	七	水苦蕒	八
一種	九	一種	九

翻白草	大葉の如きもの	一種	十瓣の物
一種	つるまゐり	一種	つらな
一種	つるまゐり	一種	武吉の産
仙人杖草	のどけ	一種	つらな
一種	つるまゐり	一種	つらな
一種	つるまゐり	一種	つらな
一種	花大なる物	一種	紅花
一種	つるまゐり	一種	黒花

一種	黄金に	大丁草	つらな	十九
地膽草	つらな	黄氏菜	つらな	廿二
一種	つらな	一種	つらな	
一種	つらな	生瓜菜	つらな	廿三
一種	つらな	一種		廿四
落葵	つらな	蕨		廿五
一種	十瓣の物	蕨		廿七
水蕨	つらな	蕨		廿九

一種	かやせふ	一種	奥及の産
翹搖	もろもろ	大巢菜	いど
一種	せ三	小巢菜	すめりもろ

本草圖譜 卷之四十九

東都 岩崎常正 著

菜部 柔滑類

茗菜

小かき 和名 丸ま 和名 ちぢ 和名

かき 和名 シキ 和名 丸ま 和名

入 和名 茗菜 和名

迦省摩指

武列相列下總海辺小多葉菜花又あり白汁
出づ秋月宿根より生ず冬を經て夏月高き三四尺なり肥より梢小黃

花を開く藟草に似て大なり葉味の苦一煮る水を加へ古味を
去り食ふ



粗君葉録小根復生
冬不枯といふ物なり
集解云時珍苦菜と
苦賣菜を同物とす
苦賣菜ハハクシと云ふ



一 種

苦苣菜

ハクコロイト 蘭荷

秋月実ふく生ハ葉鋸齒深々緑色なり
 生ハ冬を經て春莖を起ハ冬に於て
 似て莖葉瘠く秋月莖高三四尺稍多く細く
 皮を令ち苦菜に似たり莖を生ハ赤葉は黄花
 を開く又苦菜に似て小後白如く少葉白汁あり

一 説

つるふくそ 本草 苦苣菜 大和
 けいふそ 和名 苦苣菜 本草
 けいふそ 島評 のげ 苦苣菜 武州多 深 本 達 原
 黄麥 種 芭 上 苦苣菜 散葉 本草

苦 益 名物



秋月寒く生れ人家庭除瓦
 屋の上或は道傍甚と多く葉
 圓栗ふ似て鋭く又刺の
 の葉ふ似て刺の白さを帯ふ
 切は白き汁出づ園主五年中
 空ろり冬州々人月葉高
 さ三尺梢ふ花あり高きふ似
 て黄色後紫とあり而ふ秋
 月苗根皆枯る葉は縁
 若く大和本草ふ合ふ人ふと
 食ふとを和れ煮てむと汁を
 出て食ふととく



一種

うゝな柳

あひたのふとふ柳

ハナリスコロイト

黄鵪菜

山野或は人家屋上より秋月寒く生れ苗初地布き
 葉の葉ふ似て脊て薄葉縁色顔圓く葉の末花又
 あり春茎を抽きと三葉高き一尺餘茎葉を摘み
 白く汁出づ秋梢ふ花あり若き又葉方脈の
 花ふ似て黄色後白とあり
 一種は葉中葉とあり柳と嫩苗
 を採り煮て食ふ



一 煙

阿波尾

野蔓菁 本草

山野竹林又陸地！其
黃鶴來如歸小似一祀
寒暑の秋冬の間東冬
生一葉は薄公英小似
春夏の間葉の間も葉
を命ふ生一葉立たれ夜
く一葉色寒く如く
一と越えて石の如く
小似く下子向ふ如く
禍色あり



白 茄

名 御 ち

秋の彼岸又春に種を下り、菰葉小似て薄く淡紫色、葉の邊う浅き鋸齒あり。
 夏月莖三四尺、梢小枝を分ち、若菜若葉菜等の蕾の如く黄白色を開く。形菊花に似たり。実熟す、白如くあり。梅養生、子食ふ。先華白莖を詳みせしところ、苗葉黄碧色なり。滑澤あり。もと莖を起して生ず。梢の葉に粉色を帯て白色不見。因て白莖小花。

一 煙

尾州より来も葉長大可一尺許り生ず食ふ可上品なり
花実ハ前條と同し

白 苣



葛 苣

ちふらさ、マニテイにそせし。ニンズにー 蘭

花 葛 苣

時珍の説、小園圖より来る、故、葛、菜の名あり、云、本邦、少、音、荷蘭、種、
 亦、秋、月、実、を下、し、生、葉、円、く、周、粗、鋸、齒、あり、春、小、草、莖、立、三、四、尺、を、
 令、ち、節、々、に、く、く、曲、ち、梢、の、葉、尖、ち、て、長、く、葉、の、間、に、小、苞、あり、ち、ま、り、之、
 花、開、け、白、苣、を、大、く、こ、白、色、單、瓣、菊、花、の、如、く、葉、の、味、は、淡、苦、く、葉、を、ち、て、之、
 多、く、食、ふ、此、利、す、蘭、人、長、崎、ち、も、多、く、裁、て、常、く、食、用、と、す、と、ふ

一 種

ちふらさ、マニテイにそせし。ニンズにー 蘭

ちふらさ、小、似、を、鑑、高、深、く、根、生、の、葉、は、薔、公、英、花、の、如、く、脚、葉、尖、ち、て、ち、り、あり、
 秋、月、上、し、冬、を、経、て、四、五、月、花、を、葉、の、間、に、ち、ま、り、て、紫、色、の、單、瓣、の、菊、花、の、
 如、く

荷葉



なまふんちや



大和本草云其味以方寸木
餅之生食之食之四月碧
花を開く草菊に似たり朝
開暮萎葉をとりて故
後人あまうそをたつ又
葉圓く白花の物の葉
似て花碧色のものあり奈
の花は外は似ての如し
花のしなはれ此類と
す



一 種 芍薬



武州多摩川原
 遠水邊河原地
 ふより文政中
 生花初推す香
 苗を生花其時
 緑色より黄
 葉の如くも
 生銀葉葉如く
 引く水も指望
 く幅を長き四五
 寸に成り



鑑賞あり夏秋の
 間葉を抽く高き二尺葉
 夏半頃葉花の芽
 の腋の如く黄色なり
 葉味は淡甘根の形も高
 葉の如くも形葉腋
 の如く味は苦甘

草白

大葉のハハコ

1840

永承三

7500

日个利井十更

子之示前

$$f(x) = f(x) \cdot 1 = f$$
$$11 \cdot 25 = 275$$

山野陰地に多く、春霜後より生ずる葉は瓜形草に似る。根を圓く又連環屬の葉に似る。圓く一至七葉對生、一根叢生し、葉地を觸る春重々、抽く長を四五寸指し、枝を令ち五辨の實花を開く。形垂陵菜に似たり。又根莖の管の太きより、數條直下に其大なる指の太く又反黑褐色あり、肉莖赤色、葉味は淡く、根味は濃く、則ち破荒本草の圖に符合る。

一 種

形状大葉のかぶさのみ如く花弁の物

翻白草

千癖の物



一種

三葉
玉尾



江州伊吹山小亭景前條の如く
莖長く蔓の如く土を這ひ節々
根を土に花五瓣黄色根赤穂
又細川日光山龍尾水岩邊
小白花のりあり

一種

つちな 新辰 正辰

つち

とち 龍

つち

是種龍見の三葉の物山野小亭景前條の如く
色青月花あり七葉の物と同一根肥小指の太まり黒褐色硬く氣味七
葉のりあり

一種

つち

ふち

あひねん

つち

妻陵菜 草

山陽の原野小亭景前條の如く生じ葉地膚の如く根を土に蔓
面深緑のり光澤あり背白色の夏月莖を牛龍見の如く地上を
六寸有土根を食ち五瓣の黄に開く蛇母の如く根の形白頭縮又午房
似短く小く一服直立葉味淡



一種

武州多摩川底
河原に生じ、葉は
葉長大く、花赤
の葉、似て花赤
陵菜の如きもの
あり



仙人杖草

のふし

あまのけし 京

こまや 綱別

かりてん

より 蔵

花野の中、あり、秋月、葉より花葉の形、高き、葉に似たり、其
葉長く一尺余、幅二三寸、摘み白汁あり、夏月、葉高き五七尺、他草
小、油一、摘み枝を食ふ、花あり、形、高き、葉に似たり、淡黄白色、後、白
やとなり、花小

山 高 芭 敬 荒
本草



一種

あけぢやう大和草

葉の形は蓮葉の如く、或は七尖
 あり、或は大和草の葉長
 一尺餘横を二葉の形十字の如く
 或は二偏より十字の如くなるもの
 高直の如く葉小白汁あり乳の如く
 高直の如く形状和漢の語即ち葉は
 緑と、是は紅とあり赤と
 とより今のだけ実あり
 生るる物必は一葉より二葉の葉を成すとあり蒲
 は其の葉より大なり、或は二三尖あり、或は葉形
 主と、虫切と見ら故丹波氏紅毛種を疑ふなり



一種

あけぢやう

夏秋の間実する生花形状水芭蕉に似たり
 蒲の葉より大なり、大葉葉より葉を成す
 毛茸あり冬も葉は厚く重なり三四大葉を成すとあり
 花は葉より形白直ち小似たり根母塊の大なり



蒲公英

ふちふ和名 草加

たふ洞

たんが穀の音

ふちふ和名 草加

むちふ和名 草加

あや和名 草加

つゝ和名 草加

もろちふ和名 草加

づら和名 草加

イ子和名 草加

ふちふ和名 草加

奶汁草和名 草加

蒲公英

蒲公英

構構子和名 草加

鼓釘和名 草加

黄花郎草和名 草加

金絲花和名 草加

子々丁菜和名 草加

秋月宿根より生ず地ふ布き葉の薺に似たり又黄鵪菜に似たり鋸齒深き春日葉

の中ふ教蓮を曲つ中座ふ切白き汁出高き一尺許示一花あり其唇則ふ似たり開く時萬葉に似たり大なり黄白復実なり熟る白中肉地を去れば此ふ觸れハ白く飛ぶ

一種

ふちふ

白鼓釘

野薺

苗葉肥大なり白花なり冬月と花あり二種とも歌葉食ふべし味微き若く根黄白色なり節の如く一尺許なり白花の物を食用するに凡

一種

つぎふ

はな

いとふ

葉細く又枝多き花細く二十辨糸の如く

蒲公英



一種

花大者
多

二色
花

一種

紅花の物



一種
黑花

一種
ふきふめ
青花たんぽ

花弁多く唯緑色なり也
の如く此類は形状、同く穂
を有て黒色なりきゆ
此二種より実を生ぜり



一種

黄金さう戸

ゆふん花 別雁



山野自生の物、春月宿根を共に
生、大葉芥菜に似、根は数葉の中より
一莖を抽し、長さ五六寸、一花を開き、赤
くても大刺に似、刺は、花黄色、葉の如し

大丁草

ゆふんたん 春の せんめんやり 名

ゆふんたん 匙頭菜 本草

原は山野にあり、春月宿根を
生、一莖数生、蒲公英に似、小
く赤綠色葉の中、数莖を
抽し、長さ三四寸、形小菊花の
如く、單瓣、紅紫色、実を結ば
ず、秋月又葉の中、数莖を抽し、
長さ五六寸、其莖蒲公英に
似、花を開き、実熟、黄色
色の花を結ぶ



地膽草

さいとうそう 京



ふんやうそう 坂

武州河越山中及ハ野別日光諸山ナリ春徧根生凡葉ハ不
 凡葉ハ似テ三尖或ハ止火向陽の地ナリ莖葉共ハ紫色ノ根主
 リ一重を抽ク四五寸白莖ハ似テ白花を開ク畝ハ剪リ股ヲ似
 テ長ク後白茹ト云根黄白色ナリ水苦質鹹似ナリ別ハ根
 の傍より細莖を出シ莖の末地ナ附テ根を下シ葉を生じると他
 草ニ異ナリ

黄氏菜

ワガタ

ワガタ 本江中草今ハ市のたひふ
 次ハ糸の生氏菜ナリ

ワガタ 本江中草

薺見菜 本江中草

山野ハ多く生凡種類甚ク多ク剪リ股ヲの時生の物ノ葉ハ

小似て花入あるも何れ、又鑑査多し、軟く刺あり、葉の中小
 紫の斑ありともあり、花の形薔薇に似、枝多く根蔓延せ凡大
 和本草小氏俗飯不加、藥食に又あり、凡味は美毒不
 し、一穂を小形な、之を尾州小あり、苗短小、花
 丑群あり

一種

たかごささう コントリルア 旬羅 コントリルし 蘭

山宜菜 根草

原野にあり春宿根あり生、葉の形小からと同一、花淡碧色
 あり又白花もあり、皆葉小、白汁あり、味は苦し

黄氏菜



一種

みな 黄花菜菔菜



みづ 同名 ま 中 薩

てきの 同 偏 包 り 書

ハ ミ コロ イ 種 前 月 股 草

白き鬚根地ふ瑞して冬も生ハ葉ハ高直小似て春
と小初生又枝あり香ふ至て四寸の細き莖を抽
黄たと開之形蒲公英小似は此真實の妙薬なり

一種

も あ かな

い ろ な

葉の形枝ありて雲
頭の如く又銀香葉小
似たり相州七里濱
常州高天より原ふ多



生氏菜

たふふこ 大和菜草小云たふふ
とハ黄花菜ふ

かやけふ

うらうら 生かき草、胡瓜の
青は飯ふく

波々指甲菜 救荒
草

秋月実より牛冬を經らまふ之葉の形円くて指頭の大、一葉最
牛一二三葉を抽一二高、三四寸葉立生、梢總を引、立鞭
一分許りの大、淡青色の花あり、穂の尖り甚屈曲するも、海草
の尾に似たり、夏ふ玉を苗根發、花の味は深し、時珍此物も
以て前の鶏腸草小を云ふなり



一種

あなご



夏月ふきに花あり
 葉の形楕円なりて
 毛茸あり花の前條
 の物不同

一種

あなご





落葵

三月三日大和

かきふ上同

沈微子建康

紫菜子小檗

兼路録花

浮藤菜昌黎

野菜上同

人家小栽者月食を下葉ハツもふふ似たり又景天小似之煙人鋤
 西ノ莖圍一葉生一長一丈許り破葉互生凡夏秋の間葉の
 岐小穂を生くも二寸許り花立解白色後圍き実を結ふ圍く
 して平方形兒緑子實小似之太さ南燭子焼くの如熟に
 れ紫黒色此実小二葉を採へ一中小き枝ありと硬く奥別
 の人多く栽之撒苗を採り菜とし食に

藪

あふき 鋤名 どんたご 大和 十 藥上 ちごふ 六州

わとけふ 煙 かしんご 後 かしんご 前

あふき 回 岑 菜 蓮 菹 菜 通

孟娘菜 上 姜 近 菜

厄 菜 同 二

一種

尾州 菜 花
上 舞 菜 花



蕨、人家の邊、隱隱の地ふ多し、春月宿根より生れ甘藷^{じき}又落葵^{らくき}の
 似て、莖の背緑色或、紫色莖高き一二尺夏月花あり四瓣白色
 黄色の葉あり莖葉共に臭性臭あり大和本草小駿州中
 川の山中の村氏と云ふもの根をすり飯の上ふをきむて
 食れといひ本邦の人あまなく食ひ葉と云ふといひ且小毒
 ありといふ和流の馬医之れを用ひ馬小飼ふ十種の薬の能
 ありとも十薬と号れといふ田村氏葉ハ楊梅瘡疥瘡
 毒も治す功ありといふ

蕨

わぶぎ 和名 せうろ 草名 薬塩 やきぬく 上同

トハ 和名 シヨロ 上同 フロウ イキハ シヨロ ト 蘭

芥 其通雅 蕨 其 和名 芥 其 新語

萌 蕨 遠 粉 蕨 龍頭菜 上同

山中原の地向陽の處小生れ春宿根より葉を年形せんまいふ
 似て細き大和本草小三月葉ふき苗を食煮て茹とす生ハ
 性悪く塩淹及乾ふと可之乾蕨ハ奥州出羽の産を上とに
 蕨粉ハ性好れ食して消化しかくハ飢を助ふといふ高小
 あこれ蕨粉を採り其根を乾て縄とに甚強して冬、
 の地とてり其の芽の意あり

蕨



水 蕨

い の て 大和本草其和生野蕨の
手本なり 蔡名とふ

ふ い 羽野別日光
羽州 沢

ふ さ ぜん ま い

鹿 蕨 菜 救荒
本草

山野通 帝 田 澤 水 邊 小

多 蕨 葉 小 似 小 葉

面 紫 色 葉 小 軟 弱 也

薄 之 日 光 亦 有 春 月 芽

生 一 葉 而 細 麻 葉 也

あ ち ち ち ち ち ち ち ち

澤 之 二 種 あり と 云



入 羽 州 水 澤 小
春 芽 開 き とき
味 食 用 良 種
ま ち ち ち ち ち ち

い の て の 葉 先 にも
あ ち ち ち ち ち ち
ふ り ち ち

薇

た ん ま い

紫 蕨 菜 下

迷 陽 詩 經

秦 蕨

薺 蕨 雨

茅

見 拳

救 荒 野
譜 菜 名

金 櫻 茅

通 志

山野陰地小生に根は貫衆に似て春月葉小先花の生も生れ
形状小葉の拳の如く此の如き葉蕨もと極まり漸く長ハ
れに枝を生し黄色の粉あり此花より雀の葉を生し初生紅紫
色長き小葉色緑の葉小似て鋸齒ふし又出羽の産小園葉の如
き春月薇茅をもと熟しと菜とふ一或は塩蕨或は乾し
遠小寄る薇朱傳小薇似蕨而差大有苦而味苦山間人食之
謂之迷蕨と云如くせん人時珍の説小許慎の説を引く
薇似薺乃菜之微者也と云小自云次の題指を誤係小
混入せし

薇



一種 赤豆

赤豆



一種 奥州産



琉球及び奥州
島々の暖國の山に
あり形状豆と同
し唯其葉根長
くずるなり

翹 荷

ふたえりう

天和草

ときりや

まねりあ

新記

ふさふ

ふさふ

ふさふ

庚辰

ふさふ

二回

野 豌豆

水草

武州川崎海濱砂地に春宿根より萌え發し蔓延し豌豆の
似て稍小形綠色夏月葉の間小穂を生じ數花を開く形紫藤
の花に似て深紫色後角も結ぶ又豌豆に似て類々小ふり中小実
あり赤小豆に似て褐色蝦夷人実を食に





大巢菜

大草

らんそ

かきんそ

秋月実より生れ春小至りと蔓延れ長さ二三尺葉ハ若麥葉に似て
 狭く長く末小細き鬚を出し物小汗ふ春月葉の間小穂を生し
 豆の花小似たり紅葉花を開き後角を結ふ大さ五六分中お小
 き実あり

一種

春月宿根より生し蔓長さ四五尺形状大巢菜に似て葉
 大より小の葉に似て長く細き鬚あり秋月葉の間小穂を
 生し花を開く又大巢菜に似て稍大より小



小巢菜

一名陸放翁



すめあきんそう かしのめ いんそう
エロハナキナ 蝦 ヲロヒエ 鱈 コロトコシキナ 鱈
漂搖草 鹽 野 蠶 同 絲 蒼 同 々 菰 草
沙 苑 葵 菜 部 溫 草

大葉菜の一種小ふちものなりと京野砂地小あり春日実より生に
形状大葉菜に似て小く花一重一花小莢を結六角中 小一
二實あり

本草圖譜卷之五十四目錄

菜部 柔滑類

鹿藿	のきり	二	一種	きんま	
一種			一種	べしり	三
灰藿	あもみ		一種	あもみ	四
一種	もみ		一種	かき	五
一種	のきり	六	菜	あき	七
秦艽菜	うぐい	八	醍醐菜	不詳	

茅膏菜 録附	もろもろさう	一種	長葉の物
一種	あふあふ	一種	物印の園
一種	もろもろふ 十	雞候菜 録附	不詳
孟娘菜 録附	同	優殿 録附	同
芋	さつまいも	紫芋 解集	あけ芋
九面芋 解集	あけ芋 十二	一種	くらも
百果芋 解集	くらも	一種	江戸のくらも
白芋 解集	くらも	水芋	くらも

青芋 解集	くらも 十六	一種	くらも 十七
一種	くらも	野芋 録附	十八
一種		土芋	わど 廿
黄獨	せりも	薯蕷	あけも 廿二
一種	くらも	一種	くらも 廿三
一種	くらも 廿四	零餘子	ぬかこ 廿五
甘藷	あけも	一種	くらも

一種

もんまめ 江戸

もんまめ

人家及び田野にあり、春月實より生れ蔓甚く細く條の如く
葉ハ大豆に似て小く花淡紫色、秋月莢を結ひ其實平く銀
色ふも黒斑あり小見採り食ふ冬月實土中小落も春月小
至て肥大して苗を生け

一種

葉ハ大豆に似て小く蔓及び葉の背ハ黄色のち秋月葉
の間ハ穂を弄り數莢を結ひ莢ののちも短し

鹿藿





大豆



一種



一種 小豆



形状同く了
唯美、色紅
赤色多き

灰 藿 あろあろさ

あろあろさ

アロアロサス

アルデアルデス

荷蘭

蛇 菜 雅通

微 上同

灰 菜 微 草

灰 藜 頭 野譜 灰 條 上同

園圃の中ふ春月実より生れ葉ハ菜耳短く白く初生
白色を帯重ふ依理ありと互互一秋月高王三尺許精小穂を
細小の蜂花を開き後小園子を喰ひ穢穢ハ又杉蒸と同一



一 種

あろあろさ

氏判す 春に葉園中へ長く
厚く三の縦通より花実大
ふ灰藿と同一



一 種

いもふあかて

いもふあかて ざらふくいと 蕪荷

水落葵
取花本草



海邊砂地小生其形状同一と茎葉紅色と帯小葉亦深紅色の縦理あり
 莖地小撮しす直立せ其葉又小なり花実さかると同一和蘭の硝
 子を製するに焼て塩をとり用む

一 種

いもふあかて



一種

かちふあかき

なまやうき

カリ

荷蘭海邊
小生草

沙蓬 秋菫
本草

海邊砂地小生片葉ハ地膚沙ホ似テ厚く莖ハ蒸ホ似リ
秋月莖葉紅紫ホ赤ク高ク一尺許リ本ハ地ホ掘取精ホ
短き穂ト生シ形ハあかきの如ク實モ又菫ト同ク葉
味ハ微シ鹹シ此物モまじりてその名ホ不図ニ誤ッテ
陸草部地膚部の一種ト此ニ改テ

一種

りあかさ

海邊砂地小生片葉三角ホシテ莖葉鏡ホ似タリ莖蒸
ホ似テ高ク二三尺葉の同ホ扇々ト三角ホる實を結ホ
熟シテ黒色ニツホ合ル中ホ細子アリ味ハ鹹シ

ひかりあけ



藜

あけさ 和名

あけさ 正新 藜

あけさ

藜 正 藜 和名

紅 落 藜 上同

藜 群 芳

人家ふ散す春月定より
生に葉の葉耳は似て
小嫩葉紅色葉も紅色の
徐理より互に夏秋の
開梢小穂を命小穂紅
花を開き小子を地
膚の穂ふ似たり



秦 萩 萩

ろろだ 大和薬語

ろろだ 大和草

ろろだ 大和

土 荊 芥 保家

香 婆 三 體 草 大和

此物 和産より寛永の初北種 南蛮より来ると云又天正年中 西人此草を携来
 りと良薬あり 香秋の二季実を生じ葉は灰麁く不似て狭く長く地膚の葉に似
 粗き齒有りて黄綠色秋月茎高き二三尺葉の間に枝を合ち節間小穂を介し小葉
 花横簇に形萩に似たり 茎葉少方香稍前芥に似たり 莖葉を煮置中へ納
 此の薬玉に大和本草小虫医好んで用之腫物小葉をもみこみ多量に能腫毒を
 消し又汗斑ふくみ験あり 蛇咬を治すにふくみこみ多量に能腫毒を
 出のまじりふくみこみ多量に能腫毒を
 人正と帯び又ふくみこみ多量に能腫毒を
 てもふくみこみ多量に能腫毒を
 瘡出てふくみこみ多量に能腫毒を
 忽ち知あり



茅膏菜 鋸

いりあすう 檜州

山あふろさう 戸

むいさうむろ むいふいさう ぶすの



三州尾州具餘山野ふり春月宿根より互に葉細く一緯
也葉直立一長さ四五寸赤小穂もふ二三輪の小白花を南
「齊」の葉の形ふく一薄く周りと細毛あり毛の先々々粘り着
一砂土又虫の類此子觸時粘り着る如く根圓筒色之

一 種

長葉の物葉稍仰きま

凡花ふきこと同

一 種

まふみ

まうせんさ つまふみ

相州箱根信州草津美奈
山野溪間水の側ふき面
地ふ有て盤をふき葉圓
してり如ふく江ま
毛の如く周ふ細毛所
毛をふ粘りて諸物此
ふ粘りてふくふく
同一葉の中より葉を抽
一三寸赤小紅花と同



一 種

物 印 忙 大 載 方
圖 二 穂



一 種

く な る ふ

尾 州 へ 木 乃 春 月 宿
根 多 生 其 實 衆
環 不 似 舞 綠 色 面
並 其 間 亦 細 也 多
根 亦 小 塊 乃 其 類
乃 夏 月 莖 抽 上
四 五 寸 稍 不 穂 也 不
五 辨 の 白 花 亦 同 之



芋

いも つのいも 鉦和名

もろもろ 草塩 いも

カルフスフート 蘭

家芋 本草

土薬 名物

葛餅 香

長味

本草和名

淡香 上

右ふみ處へ適て芋の惣る人

紫芋集

あけいも 本草和名

とうのいも 上

あけいも 戸

冬月窟中ふ蔵したる芋の子を春月圓ふ蔵ち葉の蓮ふ似て一畝ある
形状午の面のやー根上の莖新ま葉を捲く長えい四五尺杯ふ至り
根の傍ふ子を生へ莖生熟ふ食ー根味いむる良又とうのいもの大
少物をもりいもとい是も大知本草ふ廣産ふ曰連禪芋云と云り

九回芋集

やつがし

一種

くらいも 本草和名

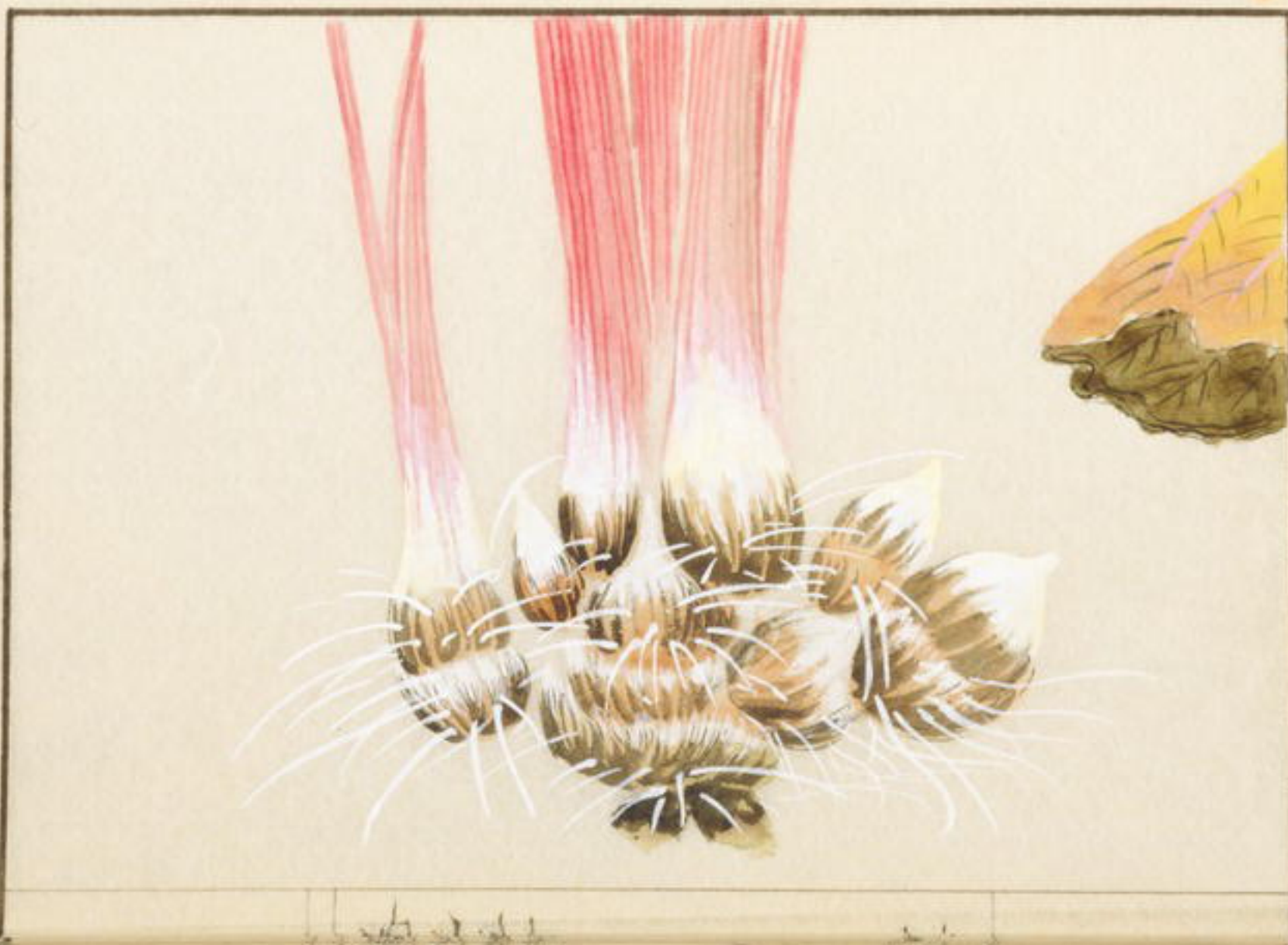
形状紫芋ふ似て莖紫黒色葉長こあて根ふ子多ー根味い又甘し

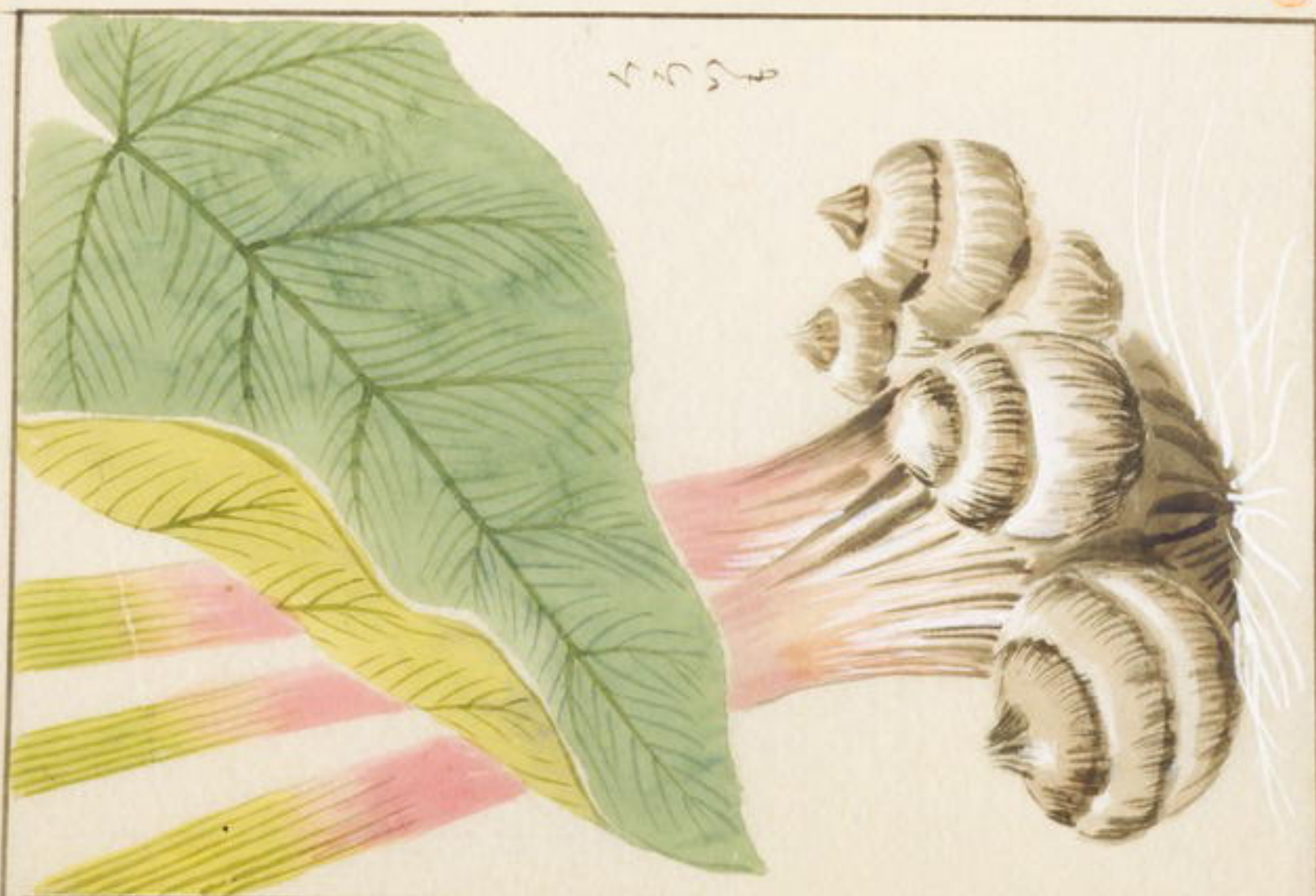
百果芋集

形状青芋ふ似て莖の半より下根の上まで紫黒色を帯ふ葉ハ
青芋ふ似て圓ー根の子離れぬして悉く母ふ附ま生へ形栗の
穴ふ似たり滋味さふふさやう生ふて 糖ふ漬食れ熟をれい
むも甘味ふ



紫芋





百果草

ひまわり



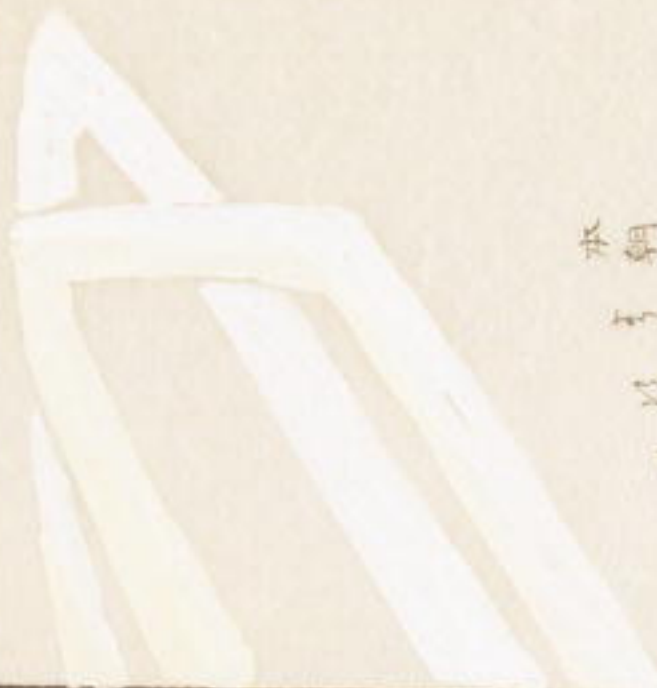
白芋 解集

あろも 後肥

あろもつき

一種

江戸の
介も



本朝食 後肥
う乾芋の茎も出
は色白く太く長く
最肥美と云ふ乾
芋茎白色より長し
五六尺味い美なり



水 芋 集

三づも 後肥

もやあも 州地 ふも 州尾



尾州地州立州小水
田中ふ裁り形状高
ふふ似たり防地寄
ふ赤色陸地ふ有く青
色ふり 芋茎とち
食ふふ此品佳し
長きとふ五六尺ふ
及ふ根の味いふり



水 芋 集 三づも 後肥



青芋 解集

ささづき ささづき

あまのり 江

形状紫赤小
似て青色茎
高さ三四尺子
多し梢葉多
あまのり食に
此は



一種

ささづき 草

茄蓮 朝鮮芋 藤

形状あまのり小似て黄綠色茎
青白色茎の中実を散りて蓮
茎の如く茎を多く生じて食用は



一種
名ふり

形状青外と同根葉味あつと食へるらん
唯冬月栽（乃、上）埃森を主心置、芽を
生して長く白色地とゆりしといふ煮て食は
味は淡薄之土物秋月青赤小葉の
同く花あり形半夏に似て長
大花辦淡緑色中必葉
黄白色



野芋 附録
いも 後取
かきすいも 後取
とろろ 後取

形状青芋に似て根
の上の莖微しく紅
紫也根堅く
毒有り食ふべ

一 種

上州下総等の河の中或泥池の中ニ生ハ葉の形青芋ノ似て
根白く竹の如く赤ニ井ヲ生シ細長の塊ヲもふすニ永ニまニく
とくもの類ナりて味ハ甚ニとニ衰ニくニ毒ヲ食ハらニん



土 芋

あぶ

つうどう 州江

ふく 州紀

あいつ 州江

アビヨ人蘭

かみあふ

香 蕨 園史南

香 芋 食物 本草

土 圖 見 本草

播州夏々山野に生に宿根より春苗も生に蔓延て草木を繞ぶ葉初の三葉
 ありて赤小豆に似て小く長きれい五葉とある紫藤葉に似て短くして
 互生に夏月梢の葉の間に二三寸の穂を生に花あり又赤小豆
 に似て平らして斜に開く淡黄色後一寸許りの長き角を結ぶ
 根小塊あり根鬚の節の間に生に小あり弾丸の如く大あり黄
 獨りの如くありて毛ふく正圓稍平なり味淡甘く微一煮一炊て
 食ふ一汝南園史に味淡甘大者如雞卵小者如彈丸一煮數濃
 食土度家供用煎茶此物藏書説とふ所の土芋之





黃獨釋名

けいふ 大和

かき

せんふ 州

どふ 世

せつ

へんりやう 仙臺

古葉 郡志

大和本草云張本明道雜誌を引て黃獨其根唯一顆而色黃故名
 二り春月実を種て生ハ竹本ハ蔓延ハ葉著積葉ハ似て弱
 く大く秋月葉の同ハ根を生一小き白花を開き別ハ葉の同ハ実を結
 小ハと零除子の如くして圓く大ハ疣あり煮て食へ一冬月截一春月
 截ハ春裁乃々実秋月小至ハ肥大し七芋塊ハ似て圓く也多肉
 黃色味ハ淡薄微一苦一蒸一と食ふ一大和本草云郡武
 府志を引て古葉藤生葉類薯三月截夏開細花一作他淡
 紅色実乃別生不附於花形如茄情ハ圓而圓黑色周圍
 有細圓點其點微高而中凹俗呼為櫛ハ九月熟上人採取
 食之其性暖能消食根頗大亦可食又有一種其实
 皮光俗呼為私食之微不反冷櫛と二り

薯 蕷

一種

薯蕷
薯蕷



蒼蒼 類

ずんも

和名
赤草類

あがも

チレコツイベ
根

コサ

ナウリフ

同

家山藥

根

則ち野山藥根の家園赤培養するもの之葉ハ草ハ解赤は似て蔓延
し竹木ハ埋赤ふ梢の葉の同子穂をふて小き碎赤白花を開く後三枝
ある葉も生赤下 舌ハ形圓扁赤似赤う 別ハ葉の間子実を結赤大指頭
の如く圓赤又長き物あり此處陰子之地赤入赤即長き根も赤根を
栽赤ふ三月頃一二寸小切て横赤栽れハ一年やて一尺餘赤至方大知本
草ハ丸著葉ハ根毎年生赤替赤他物赤異赤故ハ八月新舊赤根
並赤夏の間ハ新根漸生赤秋の末も後ハ舊根ハ生赤新根の形ハ舊根
と同一奇異赤なり

一 種

ざんも

あがも

やまの

土山藥

白鳩蔞

土蔞

藥蔞

野山藥

山野自生多赤形状蒼蒼赤類と同一諸國より出つ中ハ羽刈鳥海
山ハ生赤するもの形肥大赤て枝多く數年採赤し學赤の如きもの
を江南圖史ハ天赤字と赤ふ自生の物ハ蒼蒼赤味ハ濃美
あり唯蔞頭ハ直き處ハ味ハ微赤苦く蔞赤

一 種

ずんも

あがも

似

形状山藥ハ似て葉圓く大いハ春月根を數赤切赤て栽赤れハ
一年やて一根を生赤大い物ハ蔞蔞赤似て長く下廣く上
狭く梢扁赤味ハ淡薄赤て蒼蒼赤者赤



一種 つとねも 大和 本草

つとねも

つとねも 上

やまとも 下

佛掌諸 鎮江 府志



則ち種頌の説ふ一種如意芋之類
 而皮紫極有光者一と云へるも之形は山藥
 の似て葉圓く花も同く葉の間は零除子を生
 る根の形状長なり。白木或ハ草薺の
 似て色は肉多味ハ山藥に劣れ、又其形状
 扁く枝あるを花をてら田州をさねり下野
 してあるものと又人の形に似るもの大黒芋
 とて南寧府志ハ人薯と云ふ又形芋に似る物を
 芋と云ふと云ふものあり形は芋に似て長さ一尺許り扁
 かくて味は甚甘し越後與板ハ産氏

零餘子

つとねも 大和 州防

つとねも 山芋子 集解

薯蕷山藥等の葉の間は生る実ハ
 薯蕷山藥より実ハ太く小指頭或ハ
 大母指の如く稍長く皮薄く味ハ佳之
 佛掌諸芋の實ハ形圓く皮厚く
 味ハ劣れ又黄獨の實を江戸
 芋と云ふものあり蒸て果これ味
 ハ又佳し

つとねも

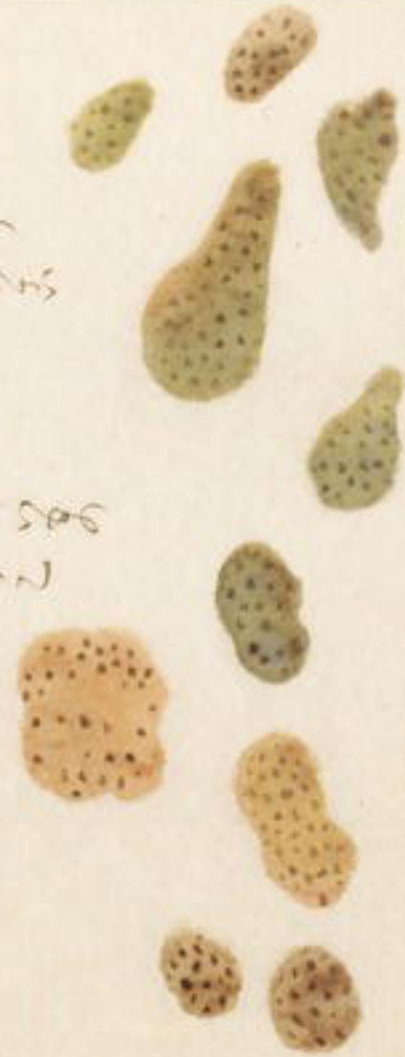
つとねも

つとねも

つとねも

つとねも

つとねも



甘 藷

あかも 嶺南

うきうき

あかもち 前肥

さつまもちり 上 同

茶番 薯 書 同

朱 薯 有 志 同

甜 藷 廣 東 新 語

紅 薯 上 同

大 米 上 同

此物農家多く栽て食料と又糧とふれ春月種を栽て生れ葉ハ蕒菜と似
 似て三四丈あつて白桐葉と似て小く莖蔓皆紅紫色其蔓を三節き切て
 土中へ三四根を生れ周り三四寸長さ四五寸頭尾尖り久
 薄くて紅紫色肉白色味ひ微甘く黄白色の物小方味り肥前小
 上品の物とりもちとふ大和本草亦同書を引て苗歷中
 閩人得之外國一齊土砂礫之地皆可以種蔓生如瓜其黃精
 山藥山藷而潤澤可食或煮或磨為粉其根如山藥山藷如
 蹲鳩者其皮薄而朱と云又閩海而南有呂宋國園園後海
 而西為西洋呂宋國有朱薯被野連山而是不待種植
 其初入吾國時過吾國鐵得是而人是一歎其種也不與土
 穀爭地と云時珍の説亦紫皮而肉白如肌と云物これ



一 種

いんげん

新肥

まろまろ

大和本草に此種元録の末琉球も薩州の渡りとり
 形状朱薯と同くして葉円く尖角なく下着茄苗^{しんぎ}の如
 く莖蔓淡紅色培養も朱薯と同く稀に秋月葉の間小
 二三の畧を生し花を開く淡紫色なりて丁香茄苗と増聲
 う根の形状又前條と同くして唯皮黄白色なりて厚く肉黄
 味い甘し上総下総鈍子^{にんご}より多く作る味い良し近年武
 州川越より多く作る物皮頗る淡紅を帯りて形状肥大之
 味い稍劣る此物粉を取るに寒中肥根を擇み白くを各圃
 一水を入丸拌白て布巾で濾して渣を去り其水を水飛しこ

曝乾貯ふ味甚甘くて葛粉と同く



本草圖譜卷之五十一 目錄

菜部 柔滑類

百合	うさぎ	一種	うさぎ	二
一種	なも	一種	なも	四
一種	かめ	一種	かめ	六
一種	はら	一種	はら	七
一種	を	一種	を	九
一種	黄花	一種	八重卷丹	十一

一 種	皮はあり	一 種	皮あり
一 種	毛も皮もなし 十三	一 種	皮のみあり
一 種	紅	一 種	絞
一 種	黄	一 種	千葉
一 種	骨一もあり 十六	一 種	骨もあり
一 種	皮もあり 十六	一 種	尾羽の 皮もあり
一 種	毛皮も皮もあり 廿	一 種	物印此の類
一 種	毛あり 廿三	一 種	皮あり

[illegible]

本草圖譜卷之五十一

東都 岩崎 常正 著

柔滑類

禮記集說

卷之六

百合

さくらり

さかりそ

さく

豆州三倉
島方言

いほふ

へ犬島
方言

カイナリザルハイ

鮮朝

野百合附

鬼

赤

汝南
圃史

惣て百合の惣名なり

一 種

芳野り

うきまり

料理り

天香百合

汝南
圃史

夜合

百花
詩

摩羅羅春

天香

共小
圃史

和州赤武列道灌山小春月宿根うき生ハ葉ハ竹の葉小
似て互生し高ハ三四尺夏月梢小四五花を開き満開ハ
白色ヤシと紫の点紅葉あり香氣あり根黄白色ヤシ
卷丹も小く是之類恭時珍云廣の物なり汝南圃史ハ
天香開於六月と云又越中富山少く少なりと云あり葉料理
つふ似たりと云



一 種

花のうき

花のうき



形状芳野多ふ
 似て壺青色高
 さ三四尺夏花ゆ
 太く五六寸白色
 一輪の中堅赤丹
 色の筋ありて紅点
 あり 甚美なり



一種

まうまうや

まぬのや

初生黄精の苗ふ似て葉六竹葉
の如く互生して高き三尺許夏
月柄ふ四五花を同く六瓣純白色
大さ四五寸筒状ふらん満開
に花弁の中ふ白色細長の丸あり



葉七本ありて長さ四寸許
頭ふ黄赤色代輪の如
き粉つく後葉を結
形射干葉ふ似たり
又越中富山ふふ
やふふあり葉柄

同一



一 種

かのあやめ 市より 洲澤

形 状 似 玉
 花 淡 紅 色
 上 紫 黒 点
 あり 此 種 類
 説 處 物 又



一 種

しるし



南部の産之素花と云ふは
高さ七八寸三四月花を同く淡紅色
中し側は白く緑白くは百合の中
より花を早く開く者なりと云ふ

一 種

しるし



寺嶋田村富統味小産花と云
葉高さ一尺許り葉はうさぎ
なりふ似て短く夏月花は白
色少く上は白く開く

一種

こうきうきうきう 江戸
 なかき 筑前
 しきり 鹿野 香 園史
 名 南

倒仙百合 香 志

茎高さ一尺許、花白
 色百合より長き
 少々許り倒ふ向を南
 香氣甚、強、其南
 園史亦翁香南於心
 月と云ふ此花を以て
 香と云ふ其製、油



其味、秋風の鈴、又百合の
 花のさきと三冬も入、煉
 膏と云ふ其印、母蛇、病、諸
 難、其の味、云々、其の味、云々

を以て硫黄、立、及、と煎一
 新、と石炭、明、の、三
 四、行、を、入、れ、煎、す、と、一、時
 許り、石炭、明、と、出、一





一種

ふくやう

寺嶋良々花黄白色背
小赤點紋理ありて花
の筒長く肉白色外
紅紫色ふ

一種

ふくやう

がうろ

卷丹

連珠

南天

珍珠 上 回頭見子花 群芳譜

是根を培養し食用とあり物之根白色形千葉の蓮花の如
くして小ふくハ小兒の拳の如く大ふくハ腕の如く葉百合小
似て四散し深緑色筒三四尺秋月梢小散花有る紅赤色
少く黒點あり葉の筒ふくを結ぶ紫黒色形見子小似たり
煮て食ふ又野生の物あり水邊小生に水ありしふ形状花
実相似て好し又羽列朱澤小花小黒点ふき物ありふく
卷丹とふ

あふり



三



一 種

黄 花
の
あまり

虎 皮 百 合
又 南 國 花

形 状 卷 丹
同 々 花 黄
り 黒 点 あり



一 種

八 重 の 卷 丹

同 形 狀 前 條 と
り 唯 花
十 重 あり



一種

まけり

越中富山
産尺形瓜巻
丹不似葉細
そを羅漢松
まの如く花
巻丹不似細
し



一種

まけり

葉筒細く花六瓣形状花色巻丹と同く肥地不蔵
物ハ花甚く多し五六十萼あり

ちもみり



一種

ちもみり

外、漢名あり



根の百合より小く葉の百合より細
 夏葉の高三三尺亦三四和
 天の白く形は百合の似て紅色
 紫点の甚長

ニヨメイノルニ

夷和

シロシロノモノ

夷和

一 種

多かりしり

和漢三
子國會

あがくも

也 錦
鈔

天上り

羽州
大澤

寺嶋良安春 多かりしり花紅黄ありと云り尾州水谷
氏高々尺餘硝ホ一花を開き或ハ兩三花を開くと云天
ホ向ホ花品類甚多一葉ハ皆同根すも異ふと云此
類總て多かりしりといふ「里代鐵」水紅白淡り又「新唐錦
水紅ホ白き点あり」「いせの」薄黄色余のえめ紋
りあり「黒龍」水濃き紅なり花星あり「地龍」水紅色なり
星ふ「瑠璃金」同上「黒ホ」大輪黒き点多し「龍の」も
濃紅なり花星あり「曙」黄花星ふ「白雞」淡黄ホて

その餘「あえり」さ「ちうあふ」「きんめめき」龍のはふ
ふと品類もふと多し又二度咲の石合あり多かりしり
の類少く早く花を開き夏茎枯れ葉落りて秋ホ至り
て又芽を出し茎を抽て花を開く一年ホ二度花ありと云
今種類甚と多し葉ハ菴丹ホ似て短く高さ一尺許り初夏
花を開く皆天ホ向ホ花辯の開離る故多かりしりと云根
黄色ホて小く浪草ホて実を載て花色変生多し其根武
江へ永る

花列

一 種 紅



一 種 紋

一 種 黃



一 種
十 葉



一種

花名一考



野州日光山にありて
成室仙翁の如く
二人乗の輪の如く
葉高き尺許、四葉花
赤山丹の如く黄色に
紅と青と下に向く





加州白山又和列大嶺
小產民壘高一尺餘
教葉一節十周，着之
車輪，如人唯層之
花，卷丹，似小朱
色，小，黑點，小葉
馬，黃色，小，小



十葉蓮花の如し

一種

くさきり

りきり

こし子う 東

野州日光山小産
 花葉の茎を周り
 着て車の輪の如く
 二重層をふり高し
 一尺餘花は小く射
 干始ふ似て淡紅



色細く赤葉の
 根葉色形状十葉
 蓮花の如くこ
 さし





一種

加まり

尾州より来り葉高く一尺餘葉師小
車輪の如く若く四層と云ふ桶小花
あり赤色赤と黒点紅紫之根白色蓮
草の如し



一種

とうせいかかり

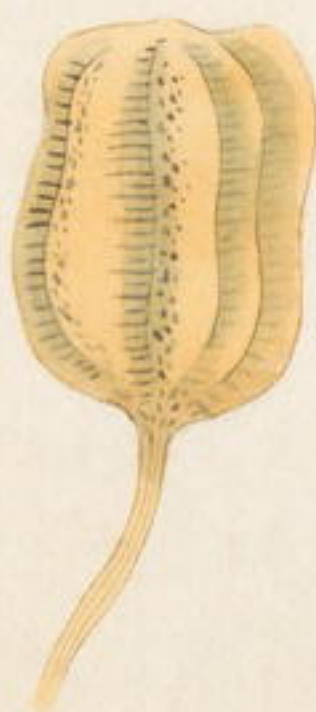
ケイセリ人エロシ 蘭

尾州より来り形
北加州白山の如
き多りと同く唯
花ハ山丹如く似

純黄色紅点あり天小
向て開く根ハ蓮草の
如くや茶色佛出之

一 種

卵印
載るる
の圖



一種

ムウロウ

加洲白山小庄
凡苗高五六寸
葉四五層を介
て多ぶりの如
く夏月花あり形
貝母に似て紫
黒色下小葉を



又蝦夷地より来
る物形状相似
加洲の産する稍
大く培養し定
し根白色形を
まじりの如し



山丹

あめり

渥丹

松鏡傳

石榴

紅 芥南
圓 災

次丹 諸群芳

散丹 同上

鶴頂

花 百詠

マルタゲンス 蘭荷

田村氏肥後の草花部に多くあり又大和伊豫も自生ありと云ふ根の
丹に似て小く春月苗を生し一尺許り葉も卷丹に似て細く葉
花あり六瓣天に向て開く紅黄色形々多きなり小似たり又あめり
今大あめりとも云形状あめり小似て大又大加本草あめり
ありあめりの類なり花深紅色ありと云花唇百詠の鶴
頂紅人

一種

あめり

黄山丹 遵生

山城の父見ふありと云又或は山に多く一形状前條に相似て黄色上
して紅點あり又黄色うて点ふきを望ふと云ふ

あめり



あめり



ひふ



一種 白山丹 連生
 田村氏長崎ふもとより

本草圖譜卷之五十二 目錄

菜部 菜譜類

草石蠟	ちりりき	地瓜兒	あられ
一種	野外の産	一種	まねがし
一種	ひめまふ	竹筍	たけのこ
若竹筍	まふの たけのこ 五	淡竹筍	うすたけのこ
莖竹筍	まふの たけのこ 六	冬筍	ふゆたけ
莖筍	七	一種	孟宗竹

一種	かんろく	桃竹筍	とく
刺竹筍		蛟筍	りばけのこ
一種	こまうけの こけのこ		
菜部 蔬菜類			
茄	あなご	一種	きんぎょおれ 十二
水茄	あなごす	同	白 十三
一種	あなごす	米茄	あなごす 十四
一種	あなごす	藤茄	あなごす あなごす 十五

苦茄		六	壺盧	あなごす	十七
一種	あなごす	六	一種	飽	十九
一種	あなごす	世	苦瓠	あなごす	世一
一種	あなごす	世三	一種	あなごす	
敗瓠					

本草圖譜卷之五十二

岩崎常正著

菜部 柔滑類

草石珊瑚

あやうき 新設 あやうき 利巧 後備

ちよな後肥　　ちよな前越　　ちよな臺仙

五環米 地環 諸君

湖 鎮延 地 用 懷 地 齊

甘露紀

脊扁根、生凡葉六續斷不似、狹、小、皺紋、有、方葉六、兩對、一莖、

葉七草多し秋月並高き二三尺形蔓の如く梢短き穂を生し小ま
紫花を開く形蓋母花に似り根白く鱗の如く末に塊を生じ冬月掘り採り
其形連珠を引て太し指の如く白色がして鱗に似たり食用とせ

地 瓜 兒 釋 名
あうね のあうさうさう 船州同 ぴーざう
ウアトル アリコヒム 蘭 地 瓜 兒 苗 萩 草

山野湿地に生じ春宿根より苗を生じ方茎面對し葉山蘭に似て頗る
小し鋸齒あり葉柄赤紫の葉に似て長し節葉黒色秋月並高き二三
尺許し葉の間節の起り淡粉紫色の小花を横旗に形薄荷に似し根
節の如く白色長しこ中を延根の頭指の太き此を採り食之し一種
俗に「んく」んくと呼物あり方茎對生し葉は「んく」に似て短く鋸
齒淺し形薄荷に似て香あり節の間淡紅花を開く秋冬の間根に塊
を生す砂状草石炭に似たり

草 石 蠶



地 瓜 兒

一 種

野 外 日 光 山
の 産 品 赤 濁
金 小 似



一種

さくらんぼ

形 状 ぶちねに似て
茎 細く葉 細く小
鋸 歯あり根 白色
地 瓜 見の如し



一種

ひめろは

下 総 中 川 近 水 地 亦 生 け
形 状 甚 小 く 葉 六 石 薄
荷 の 如 く 茎 細 々 し て
蔓 延 し 葉 の 間 亦 白 花
を 開 き ち ら ら し ま る
如 き 実 を 結 ぶ 根 草 石
苔 虫 亦 似 し 小 也



竹筍

たかんち和名 たたま たけのこ たん上総
 ヨシムカ人前 玉 創腸筍明 毛頭名物
 草葶本草知名引 玳瑁簪事類 錦襦見上
 錦林子書言 吉羅々花

諸竹の筍の総名を集解に説く處の筍種とこれあれとも和産なく
 又食用なりき者あり略して載る竹の部に至つて詳し出で今食
 用不用を拘も圖れ

苦竹筍

まれち小生れ筍
 淡竹ぐも遅く生れ
 皮黄紫色也して黒斑
 り味苦



一種相公金子村に周る一尺七寸長き筍間余の竹ありた小生れ筍老く集解に
 極端説き一連殊々若不可食とふもの是なり

淡竹筍

こちくの筍
之皮若竹と
同く大葉
白色にして
斑文なく若竹
より早く生し
味は甘く食
用は上品なり



筍竹筍

明ふろな竹一名のろばりふ
生るる筍なり 竹譜詳録に筍
不可食と云



冬筍

冬月筍の亦と土に生ずる中亦有
 と地と云ふ又竹林と地と根の
 節より生ずる筍と云ふ筍あり
 形頗る魚の如く食へし此穀筍
 竹譜亦偽筍又二筍と云俗に
 むろと云ふなり筍と云ふ如本
 草の竹根の傍に筍不似る者長
 四時より食ふべしと云ふ
 竹譜詳録に江西及衡湖人入
 冬視其下地逢穴虎掘食之
 謂之老筍其甚大留不取至春
 亦在兩柄生春筍為所と云



竹筍

竹譜詳録に戴、處の
 圖に生ずる江浙河南
 九湖漢兩江之間俱
 有之凡大種竹筍出
 時無斑花者名黃筍
 石室竹出時斑花一名
 晚筍と云



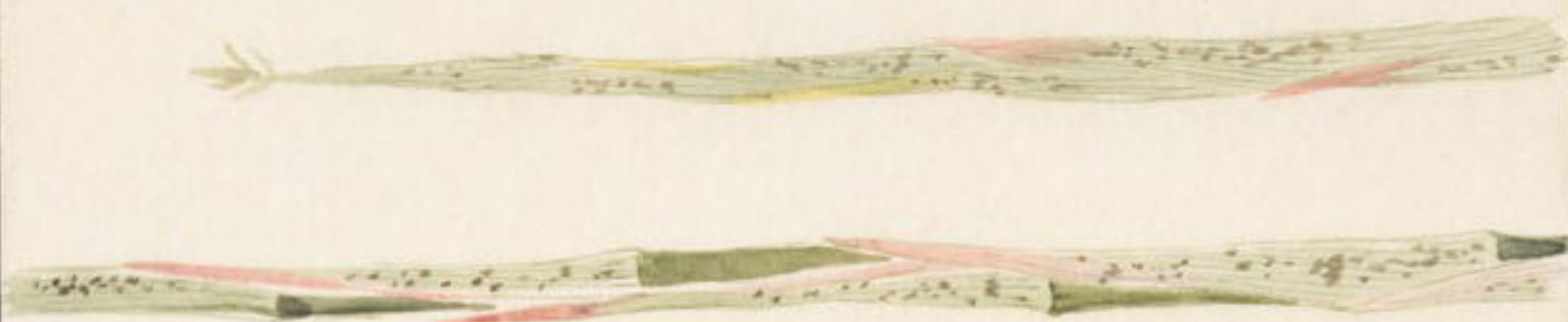
一種 孟宗竹 雪竹 詳錄

數十年以來の聊りて渡りて詳ふに若竹も太くして短く竹軟く梢
 盧竹の如く葉細密なり此物諸竹より早く冬月生れ筍も肉多く其色
 味甘くして菜一竹譜詳録云雪竹生江西板蕩似孟竹而稀疎葉節
 長尺許其薄地江蘆差堅其葉角色純白故名或云孟宗冬月哭而生筍
 有即此竹也張得之譜云出清源深冬生筍雪竹二云即江南竹筍之
 早出者なり



一種 芘らく 孟宗竹 本和 紫竹 竹譜

十月筍を生じ短き物も幹より煮て食ふ味は腹美之



桃竹筍 さくら 省 薇 薺 草

和名さくら今桃木の省薇なり此筍之薺草部と園説も載

刺竹筍

和名詳おさけ竹譜
詳録上載さけの園
身は唐石西証有り
た多即刺竹也南方
呼刺竹節は生大
者三尺圓肉厚銀灰
皮中彼人硬以為弓
材故東意下西自
根至梢皆節間散
生二刺六と云



酸筍

あしなけのこ

天目筍

俗清

大和本草に今異名を長崎と云ふ皮を去り圓を煮て沸湯を
煮て皮を剥いて乾くは此地より冷水に三日浸し取出し糸
絶ひ如くおかし煮て食はるゝと云ふ本朝食鑑に右より醍醐の
煮筍を以て珍と見然れども其を採り煮て食するはあらずと云ふ

一種

こまなけのこ生ける筍



菜部 茄菜類

茄

あすき 和名

あす

小菰 群芳譜

紫膨脹 同上

穉瓜 廣東新語

春月実を下して生ず葉酸漿の如く似て肥て大に軟葉並に枝幹皆紫色
の花を開き実を結ぶ葉小刺あり小なる無花果の如く大なる菜瓜
の紫色光澤あり老に轉る黄褐色なり此をねあすも不附方と黄
老茄子又老黄茄と云ふ



乃ぬあす



一種

きんちやあす

荷包茄 新廣 諸

葉其幹ともふ加と
 同唯実横ふ廣く
 縦ふは即ちう形まん
 うやう如く故ふわ
 う又二葉ふ四五果並ふ
 着ふのあり此ありと
 ふるのふ葉ふ



水茄 解毒

おかなす

田村氏大加の宇田郡よ
ありとふり又筑前ふも
あり長きもの七八寸ありて
紫色なり同國ふ一種白色
の物あり綠色の物奥州ふ
ありとふり



群芳譜 ふ一種水茄形稍長
亦有紫青白三色とふ又田
村氏長門の下の國も青水茄
あり形状甚長く青色青白
なり又おかなすとふ

白おかなす





一種 あわなす

田村氏此種肥後阿蘇郡ありて村
 ありと言今江戸より一葉色葉
 葉葉皆綠色にて嫩く毛あり花の形
 茄と同一く一但白色其実綠色味
 が芳なり

赤田加解

あわなす

尾州より来り形状あわなす
 似て実白色中へ圓一時珍
 苗茄白而扁甘脆不寒生蔬可
 可食と云



一種

去ろあす

苗葉稍小やして花白
 色尖小くも熱せ
 るとき白色花をれ
 純黄色と云ふと悪
 り食ふは時珍
 王履農書も引潮海
 花白色而吐実とふもの
 恐るこれあらん



藤加藤

えんぶあすむ

あすむ

風茹文 山茹上 六月柿群芳 蜜柿上

青月実を下して生は葉六蜀羊泉に似て肥大やして生は茎軟弱
 して立も能は乃地は延び茎の節も根を生ず葉葉茶毛茸あり
 実あり飲ふ至りて花あり花は似て小やして純黄色後茄子に似て
 四角形柿に似たり実暖寒に食用すと云昔宛山志小菴市種車并平
 味甚甘美なりと云

加藤



茗 茄



物に此の載る所の圖は竹葉の物あり小樹あり葉は茄に似て稍長あり
鋸齒あり其実茄 形髣髴とて黒褐色此物集解の説合

空 盧

ふか不

ありふさふ

ありふさふ

甜 飴 方金

春月実色下して生片葉を瓜に似て鬚を三して汗ふ花は瓣
白色晝く不く夕に開く形無食瓜に似て其實越瓜に似て長く
二三天生熟ともは緑色嫩たまふ食ふべし 鄂州城外信州四州提是等
小夏時晴天を伺て薄く炙り曝乾し乾くをかんじふとて大和木
草子割て繹毛を引て飴草とて



盧 盧



一種

壺

大和草科の草であつたこと
云是人の形をふらふもの
唯其實土根の下廣く
番南人等の形に似たり



一種

匏

之極

其形如

瓜而大

其色如

瓜而大

其形如

瓜而大



其形如瓜
而大其色
如瓜而大
其形如瓜
而大其色
如瓜而大



其形如瓜
而大其色
如瓜而大
其形如瓜
而大其色
如瓜而大



一種

瓜きぶ 瓜きぶ 瓜きぶ

つるふ 長柄胡蘆 水南
園史

小柄蘆 蘆 附 方

長柄茶蘆 附 方



其形細長 中一寸四寸
長さ柄二尺四寸 廣さ
半寸 切て物とする

苦瓠

苦瓠 苦不老 附
記よりん 小かむさぶ 秋薬壺 上同

形状同く、或る白く、或る赤く、其実略細く上稍長く下内く大なり
味苦く多しと云ふ所より唯乾し之酒器と云ふ加刺越及を上より
大なるもの非ざるを小なる物数名を入る此數を干し割亦用也
其瓜蒬と同し

一種

記よりん 小薬壺 附

形大なる物と同く唯小なり三四寸之





形状如瓜
 の如くありて
 形よく其かな
 るものあり大
 ふくものあり
 以て珍るる
 無難事と云
 生二寸ハ 胡蘆
 と云ふ

敗瓢

破瓢

舊壺 盧瓢

陳壺 盧瓢

此條の一物をまれにあらずと云ふはなんぞと云ふらん
 の器を用て年を経敗れ陳腐なるものを云ふ